

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

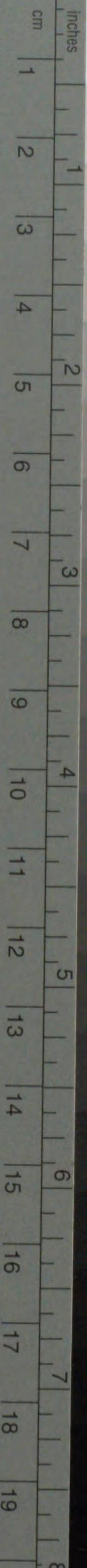


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak



804

昭和七年九月一日發行

製鐵所參考資料

(第五拾四號)



製鐵所總務部

例言

- 一、本冊子ハ文書課ニ於テ抄譯シタル外字新聞若クハ雜誌中掲載ノ事項及ヒ其他ノ調査資料ニ付キ參考トナルヘキモノヲ撰ミ關係所員ニ頒タンカタメ謄寫ニ代ヘ印刷スルモノトス
- 二、本冊子ハ當務ノ參考ニ供スルヲ以テ目的トシ文字ノ彫琢編纂ノ體裁ニ於テ缺クル所少ナカラサルヘシ讀者之ヲ諒セヨ

製鐵所總務部

製鐵所參考資料第五拾四號目次

鑛業の價值……………一〇

中國鐵鑛ニ日本との關係……………二〇

世界主要國最近鐵鑛生產事情ニ獨、白及ルクセンブルク鐵鋼業設備概要……………二九

露西亞クズネツク製鐵所製鉄開始……………五八

本邦硫化鐵鑛調査概要……………六三

英國鐵鋼業保護ニ斯業改造問題……………七二

雜報及統計……………七九

合衆國鑛物工業の低作業と對策……………七九 獨逸鑛石の供給資源に就て……………八〇 兜の緒を締めて完全なる統制へ(保護關稅景氣に處する英國三大製鋼)……………八三 ルクセンブルクの鑛石(一九三一年)……………八五 歐洲鐵鋼市場近況……………八六 本年一、二、三、四月の英國の壓延鋼材生產高……………九〇 本年一、二、三、四、五月の獨逸壓延鋼材生產高……………九二 一九三一年の世界石炭產額……………九三 一九三一年中加奈陀の鉄鐵統計……………九七 一九三二年第一四半期中英領印度鉄鐵輸出高……………九八 本年四月中獨逸の操業高爐並品種別鉄鋼生產高……………一〇〇 本年四月中佛蘭西の操業高爐並品種別鉄鋼生產高……………一〇一 本年四月中佛蘭西の操業高爐並品種別鉄鋼生產高……………一〇二 本年四月中白耳義の鉄鋼生產高……………一〇三 本年四月中ルクセンブルクの操業高爐並品種別鉄鋼生產高……………一〇四 本年四月中白耳義の鉄鋼生產高……………一〇五 一九三一年中合衆國の亜鉛生產高 (Slab zinc) ……一〇六 一九三二年五月中合衆國の鉄鐵產額……………一〇七 一九三二年五月中ルクセンブルクの鉄鋼生產高……………一〇八 一九三二年五月中獨逸の鐵鐵產額……………一〇九

一〇三 白耳義とルクセンブルクの操業高爐數並に銑鐵生産高比較……一〇四 一九三二年中西班牙の鐵鑛石及び銑鋼生産高……一〇五

附 表

- 一、製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生産高月別表
- 二、各國銑鋼月別生産統計
- 三、鐵鋼に關する關稅率改正の沿革

鑛 業 の 價 値

“Mining & Metallurgy June 1932” 掲載 By Scott Turner
Director, U. S. Bureau of Mine (President, A. I. M. E.)

摘 要

最近五ヶ年間に於ける世界鑛産額の年平均は約一二〇億弗であつて、其の内米國は約六〇億弗、加奈陀は二億七千萬弗を占めて居る。

一八八六年から一九二六年に至る四〇年間に於ける米國の國民一人當鑛産額は、七弗八七から五三弗三四に増加し即七倍し、加奈陀の分は二弗二三から二五弗六一即二倍となつた。

米國と加奈陀の鑛産割合は次の如くである。

米 加 兩 國 鑛 産 種 別 割 合 調		金 屬	燃 料	非 金 屬
期 間				
米 國	一九〇一年—一九〇五年	四二%	三九%	一九%
	一九二六年—一九三〇年	二三	五五	二二
加 奈 陀	一九〇二年—一九〇五年	五六	二六	一八
	一九二六年—一九三〇年	四八	二七	一五

即最近に於て金屬の生産率は減じ、燃料と非金屬とは著しく増加して居る。

米 國 鑛 業 と 關 係 人 員

	年價額	從業員	間接扶助人員
探掘業	六〇億弗	二〇〇萬人	一、〇〇〇萬人
精鍊加工業	一五〇	二〇〇	一、〇〇〇
取引業	二〇〇		五〇〇

斯くの如く吾人は同胞二、五〇〇萬人の生活に對し責任を有して居る、尙斯業は原礦物のみを對し、其の一切の原料工業を合せたものの支拂ふ税額に約五倍する直接税を政府に支拂つて居る。

鐵道が其の貨物屯數の半數以上を鐵産物に仰いで居ることは周知の事實であるが、此の數字は探掘された儘の原狀礦物を指示するものであつて精鍊所其他附帶諸工場からの再積屯數は含まない。

礦物は地理的に集中し、加奈陀の一少地域から世界ニツケルの約九割を産し、白耳義領阿弗利加には吾人のラヂュームの殆んど全部を供給する地方がある、各種礦物も如斯偏在するものであつて、此の局所限定的事實は國際的に又戰略的に重大意義を有するものである。

探掘は永久に鐵産物を破壊するも其の鐵産物は、農、林、水産物に比し長期間保存利用せられ得るものである。貴金屬類に於て特に然りである。例へば金の年産額四億弗は金貨幣のストック合計の四%よりも少いのである。鐵の如き化學的に變化し易い金屬でさへ、其の屑を利用することによつて處女金屬資源の消費を延長するものである。

加奈陀の鐵業は最近著しく發展し(第一圖參照)此の二〇年間に米國の増産率は六二%であるに對し、加奈陀は六二%の増産振を示し、國民一人當産額は、米國の七弗六六に對し加奈陀は一五弗五〇に達して居

る。(第二圖參照)

各種鐵産物中世界を通し燃料鐵床が重大性を帯びることは第三圖に示す通であつて、世界鐵物年産額(一九二九年)約一四〇億弗中、燃料は四八%を占め、其の他は金屬三〇・四%及非金屬二二・六%である。尙金屬價格の内鉄製は二三・一%を占め、燃料中石炭は三〇・四%を占めて居る。

技術方面に關する最近炭鐵業の功績は實に輝かしいものである。例へば米加兩國に於ては函積(炭車)其他の改良を行ひ、一日一人當出炭高は、大戰前の三・六一屯から最近五・〇三屯に増加した。

然るに炭鐵業の經濟事情は、其の技術的成功に比べ實に不満足なものがある。即一九二九年米國の瀝青炭會社二、三〇〇社中利益を擧げたのは僅かに九〇〇社のみであつて、斯業の全缺損高は一、一〇〇萬弗に達した。

米加兩國は一九二九年に於て世界全鐵産價額の四七%を占め、且其の鐵産物は多種多様に亘つて居る。然し兩國は競争的であるより寧ろ補給的であることを認めねばならぬ。此の關係は第四圖によつて明瞭である、例へば米國の石炭は國內使用者の買ひ得る値段よりも廉く加奈陀人提供せられ、亦鐵鋼に於ても米國は加奈陀の基礎工業に對し、低廉な價格で供給し得る代りに加奈陀は電器に必要なニツケルと高級石綿とを提供して居るのである。

從來鐵業其の加工業の重大性に關しては等閑視せられた觀があつたが最近漸やく世人の注意を招くに至り同時に文明の舞臺上に演ずる技術屋の立役も亦認められつゝあるのである。然し乍ら鐵業の産業的重要性

に關する精確なる數量的知識は斯業關係者以外殆んど持合せない。文化の全進歩は人間が礦物の利用に漸次熟達せるの反影なりとする極端論者もあるにはあるが然し全體より見れば斯業の重要性は看過せられ居るの憾なきにあらず、因つて筆者は茲に合衆國、加奈陀及び世界に於ける礦業の重大性に就ていさゝか注意を促さんとするものである。

合衆國の礦産額は普通年約五十五億弗で過去五ヶ年間の平均は之より稍々多かつた、然し昨年の産額は三十二億五千萬弗弱に落ち尙ほ現在も引き續き減少の傾向を辿つて居る。加奈陀の五ヶ年間の礦産平均は約二億六千八百萬弗で昨年は二億二千七百萬弗であつた、加奈陀の平均は金の増産に因つて合衆國に比し良好なる事態を持續して居る（一九三〇年の加奈陀の金産額は初めて合衆國を凌駕した）、五ヶ年間に於ける世界礦産額の平均は概算約百二十億弗であつたが昨年即ち一九三一年産額は八十億弗以下に落ちた。

第一表は一八八六年（資料の利用し得べき第一年）、一九〇〇年一九一〇年及び一九二九年於ける合衆國、加奈陀及び世界礦産額の比較を示す。

第一表 合衆國、加奈陀及び世界に於ける礦産額の増加率

年次	合衆國		加奈陀		見積	世界	
	價額	増加率	價額	増加率		價額	増加率
一八八六年	四、八八、八〇〇、〇〇〇	1.0	10,111,000	1.0	1,400,000,000	1.0	0.5
一九〇〇年	1,108,848,000	23.3	25,211,000	2.5	4,100,000,000	2.9	1.0
一九一〇年	1,977,848,000	42.2	108,648,000	10.5	5,700,000,000	1.7	1.5
一九二〇年	6,911,348,000	146.6	317,848,000	31.3	17,000,000,000	3.0	4.0
一九二九年	5,877,000,000	113.3	107,148,000	10.0	15,500,000,000	2.8	3.5

一八八六年一八九〇年を1とす

一八八六年一九〇〇年を1とす

一八八六年一九〇〇年を1とす

自一八八六年至一九二九年四十三年間に於て世界の礦産額は約十倍し合衆國の分は十二倍以上に達し加奈陀の分は三十倍に達した。然し加奈陀の産額増進は斯くの如く大なるものあるにも拘らず一九二九年に於ては世界合計の僅に二%合衆國の五%に過ぎない。

一八八六年と一九二九年とを對比して算定した一ヶ年當りの増加平均は第二表に示せり。

一八八六年から一九二六年に至る四〇年間に於ける合衆國の一人當り礦産額は七弗八七から五三弗三四に増加し即ち七倍し、一方加奈陀の分は二弗二三から二五弗六一に、即ち十一倍となつた。

一八八六年に於ける合衆國の一人當り産額は加奈陀の分に比し三倍半大であつた。然しクロンダイク(Klondike)に於ける金の發見は加奈陀の礦産額を急速に増加し一九〇一年に於ける一人當り産額は殆んど合衆國の分と等しかつた、其の後加奈陀に於ける一人當り産額の増加率は合衆國に及ばず一九二六年に於ては約一對二の比率を生じた、現時の不景氣期間中に於ける礦産額の減退は合衆國よりも加奈陀の方著しく、爲めに一九三一年の一人當り産額は僅かなから合衆國の方が再び良好となつて居る。

第二表 自一八八六年至一九二九年一年當り鑛產價額の平均増加
世界 三〇二、〇〇〇、〇〇〇弗
合衆國 一一六、〇〇〇、〇〇〇"
加奈陀 七、〇〇〇、〇〇〇"

合衆國に加奈陀の鑛產物たる金屬、燃料及び非金屬の重要性は興味ある對照を示して居る。

自一九〇一年至一九三〇年期間合衆國の金屬生産高は減少し燃料に非金屬の生産高は増加した。加奈陀に於ても同様の變遷を示した。自一九〇一年至一九〇五年及自一九二六年至一九三〇年五ヶ年の期間を比較して見るに、合衆國の金屬産額は全産額の四二%から二三%に減じ一方加奈陀の分は五六%から四八%に減じた、同一期中合衆國の燃料は三九%から五五%に増加し、加奈陀の分は二六%から二七%に増加した、一方合衆國の非金屬産額は一九%から二二%へ加奈陀の分は一八%から二五%へ増加した。

筆者は合衆國及加奈陀探鑛冶金技師協會の双方の會員たるの故を以て、亞米利加及加奈陀技術協會の會員の分を比較せる兩國の鑛産額を述べて見よう。自一八八一年至一九三一年 A. I. M. E. 即ち亞米利加探鑛技師協會一會員當りの合衆國の鑛産高は自一九〇一年至一九三一年 C. I. M. M. 即ち加奈陀探鑛冶金協會一會員當りの加奈陀の産額は之を第三表に示す。合衆國に於ける一會員當り産額は一貫して加奈陀の分より二倍以上大である、こは加奈陀鑛業に於ける技術上の取締の比較的嚴重なるに一部原因するもの云へようが、然し此の相違の大部分は、合衆國に於ける石油、石炭及び建築石材工業方面の産額が大であるからである。

鑛業の價値

年次	A. I. M. E. (亞米利加探鑛技師協會)	C. I. M. M. (加奈陀探鑛冶金協會)
一八八一年	三〇三、〇〇〇	(a)
一八八六年	二八九、〇〇〇	(a)
一八九一年	二六六、〇〇〇	(a)
一八九六年	四一三、〇〇〇	一九九、〇〇〇弗
一九〇一年	四八九、〇〇〇	一七二、〇〇〇
一九〇六年	四五七、〇〇〇	一〇六、〇〇〇
一九一一年	六七二、〇〇〇	一四八、〇〇〇
一九一六年	四四四、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
一九二一年	七二二、〇〇〇	一六九、〇〇〇
一九二六年	三三三、〇〇〇	一四五、〇〇〇
一九三一年		

註 (a) 「C. I. M. M.」は一八八八年に組織せらる

鑛物は採掘せらるゝものであるが然しなから地中から採掘された其の後の處理は廣範圍に亘る諸工業を伴ふものである。吾人が年約六十億弗の鑛物の生産に要する鑛夫二百萬人の備役は恐らく一千萬人に對し間接

の扶助を與ふるものである。吾人の鑛山から供給された原料が精鍊され加工された時の卸價額は百五十億弗以上に達す、而して此の第二階梯の期間中に二百萬人の勞働者が備役せられ之れに依りて亦間接に他の一千萬人の人々が扶助せらる、第三の階梯は即ち究極の消費者に對する分配であるが、此の方面の取引高約二百億弗に達し此處に於ても亦恐らく五百萬人以上の人々が扶助せらる、斯くの如く吾人は同胞二千五百萬人の生活に對し責任を有して居るのである。一方斯業は原鑛物のみに對し其の他一切の原料工業を合せたもの、仕拂ふ税額に約五倍する直接税を政府に仕拂つて居る。

鐵道が其の貨物屯數の半數以上を鑛産物に仰いで居ることは周知の事實であるが然しながら此の數字は、採掘された儘の原狀鑛物を指示するものであつて、熔鑛爐、精鍊所、非鐵加工所及燃料鑛物諸工業の還元工場からの再積屯數は含まない。油業のみが其の精鍊所から鐵道に與ふる屯數は夥しきものである。

過去五ヶ年間の平均約六十億弗に上る鑛産物の年産額は之を斯業の投資額約百十二億弗に比すれば大であつて投資の半ばに達してゐる、之れに對し例へば鐵道の年産は（電鐵を除く）其の投資額約二百四十億弗の四分の一位である。

鑛床は取り盡さるゝものであり又減多に存在するものでなく或は又舊來の鑛床は新鑛床の發見に依つて妨げられたり廢棄の運命に遭ふこともあり尙且含有金屬の經濟的地位は屑金屬や極少量のストックの存在に依つて影響せらるゝものである。

第一特徴の「取り盡し」はたゞ處女林の亂伐、天然漁場の殘忍な殺戮、新耕土の無謀な消盡等も稍々之れに類似する所なしとせざるも然し殆んど探鑛業のみの特色とするものである。鑛石の採掘さるゝ毎に鑛山の資源は逐日減少し其の價値は減殺せられ生命は短縮せらる。

農業、林業、漁業、水力等總べて是等の産業は永久の豐饒觀念を包含し生長又は補充せらるゝものであるが資産としての鑛體は採掘に伴ひ逐次消耗するものである。

鑛床に依つて表はされる資本は其の消耗を會計勘定に入れねばならない、採鑛に依つて取得する利益は投資の割賦償却に關する株主の無智から往々實在よりも大に見へることがある。設備の救護價値は鑛石が無くなつた場合は通例小なるものである。

鑛山は死滅するものであるが爲め其の探鑛區域又は地方は轉々として常に廣範圍に移動す、鑛物資源の關する限りに於て此の轉變性は州、國、大陸の隨所に現はれて居る、十九世紀内に於て鑛産の中心は東半球から西半球へ、英國から合衆國へ移動した。主要鑛産地は英國へ移動する以前に於ては恐らくエヂプトからサイプロスへ、次に小亞細亞、ゴール及び獨逸へ轉變したものである。

銅に就て見るに、其の生産中心地は、サイプロス（小亞細亞の南地中海の一小島）から西班牙、瑞典、英國、智利及び合衆國へ順次移動して居る、尙合衆國に於ける中心地はミシガンからモンタナ次にアリゾナへ轉移した。半世紀に亘り銅生産國の首座を占め且つ將來も此の地位を持続せんことを欲する合衆國が結局は

其の地位を抛つであらうことは、其の探鑛業者が銅の關稅賦課を歎願せることに依つて明かである。昔時銅を生産し、而して一時世界の銅生産中心地を成した中央阿弗利加は、遠き將來に於ては再び其の最高地位を占むべき運命にあるものゝやうである。

石油に就て見るに、羅馬尼は一八五七年から二ヶ年間油界を支配したが其の後生産中心地は合衆國に移り其の生産高は世界供給高の九割以上に達した、一八九八年には露西亞に王座を占められたが然し一九〇二年には再び其の地位は亞米利加に奪還され爾來今日に及んで居る、合衆國內に於ける生産中心地はペンシルヴェニアからオハイヨ州へ、次にカリフォルニア、オクラハマへ移動し、再びカリフォルニアへ、亦オクラハマへ交互に移動し斯くして一九二八年に至り王座はテキサス州に移つて今日に及んで居る。

比較的小なる鑛産地域

斯くの如く今まで發見せられ或は稼行せられつゝある地殻内の鑛床範圍が如何に小であるかは探鑛地域を示すの地圖を見ても明かである、石炭、油、瓦斯は廣く薄く存在して居るが貴金屬の多くは急角度に傾下して存在し従つて水平面に投影する場合は特に狭小に見へる。

合衆國に於ける既知各種炭田の地域は僅に約四九六、〇〇〇平方哩で（合衆國の全面積三、〇二六、七八九平方哩）無煙炭田の地域は四八四平方哩に過ぎず、又其の既知油田の地域は七、〇三七平方哩で即ち全面積の〇、二％に過ぎない、若し合衆國の油及び瓦斯田地域に重覆層が無いとすれば、双方の合計は僅に一三、

一九四平方哩で全面積の〇、四％に過ぎないであらう。

金屬鑛の中には地理的に集中して存在するものがある、例へば加奈陀の一小地域から世界ニッケル産額の約九割を生産し又最近白耳義領阿弗利加には吾人のラヂウム殆んご全部を供給せる一小地區がある、合衆國には、錫、ニッケル、コバルト、ラヂウム、アンチモニイ、ブラチナ等は商業的に有利な鑛床無く又クローム、アスベストは殆んご皆無き云つてよい。此の甚しい不揃ひな局所退定の事實が國際的に又戰略的に如何に重要であるかは若し諸君が石炭又は油を有せざる國は何國であるかを考察せられ或は又軍事的に重要な所謂戰略的鑛物の一覽表に通目を通して其の狭小なる地理的及國家的分布に氣付かるゝならば、よく了解せらるゝことと思ふ。吾人は、ラヂウム、ニッケル、サルファ、ダイヤモンド、ワナヂウム、アルミニウム等の如き鑛物商品の共同專賣云ふことに就てはよく承知して居るが右商品の或る物及び其の他ヘルニウム、ボタシソルト、ナイトレート等の如きものは國家的に專賣されて居ることをも認識して置かねばならぬと同時に是等の鑛物を所有することに依つて通商條約特惠條約或は又秘密條約等が出來従つて重大なる國際的意義の外交的手腕を要する協約を將來するであらうことに留意せねばならない。

リース氏は、北大西洋地域には廣大なる既知鑛床があつて歐洲及び北米に對し産業的霸權を保證し、兩大

陸の大西洋海岸に特殊の利益を與ふるであらうことを屢々強調されたことがある。探鑛は永久に鑛體を破壊するも之れから得たる金屬は急速に失はるゝものではなく農業、林業其の他の原

料工業の生産品に較べて長期間に亘つて存在し有益である、其の結果は逐次ストックを積み重ねるも而も容易に利用又は使用せられ得る状態を保つものであつて、特に終には世界供給の要素なる貴金屬類に於て然りである。一九三〇年には、貨幣外の形で存在せる金は頗る多量であつたが尙貨幣ストックの形で存在した額は過去十世紀間に生産せる金全部の半數以上で其の價額は一一、五二二、五七九、〇〇〇弗に達したのであつた。

然るに此の金の量は僅に約三一呎の立方體を形成するのみであらう、新しい金の年産額四億弗はストック合計の四%よりも少ないのである、更に貴重な酸化の感受性少なき或は化學的變化の少ない金屬層一層永久性を保つものである。鐵の如き化學的に變化し易い普通の金屬でさへ多量に累積するもので而して其の新鐵の年産額は合計の一小部分を成すに過ぎない、反覆製造と貯藏金屬の使用に依つて屑を生じ、而して屑は屢々重要な資源となり處女金屬供給の消費を延長するの助けとなるものである。

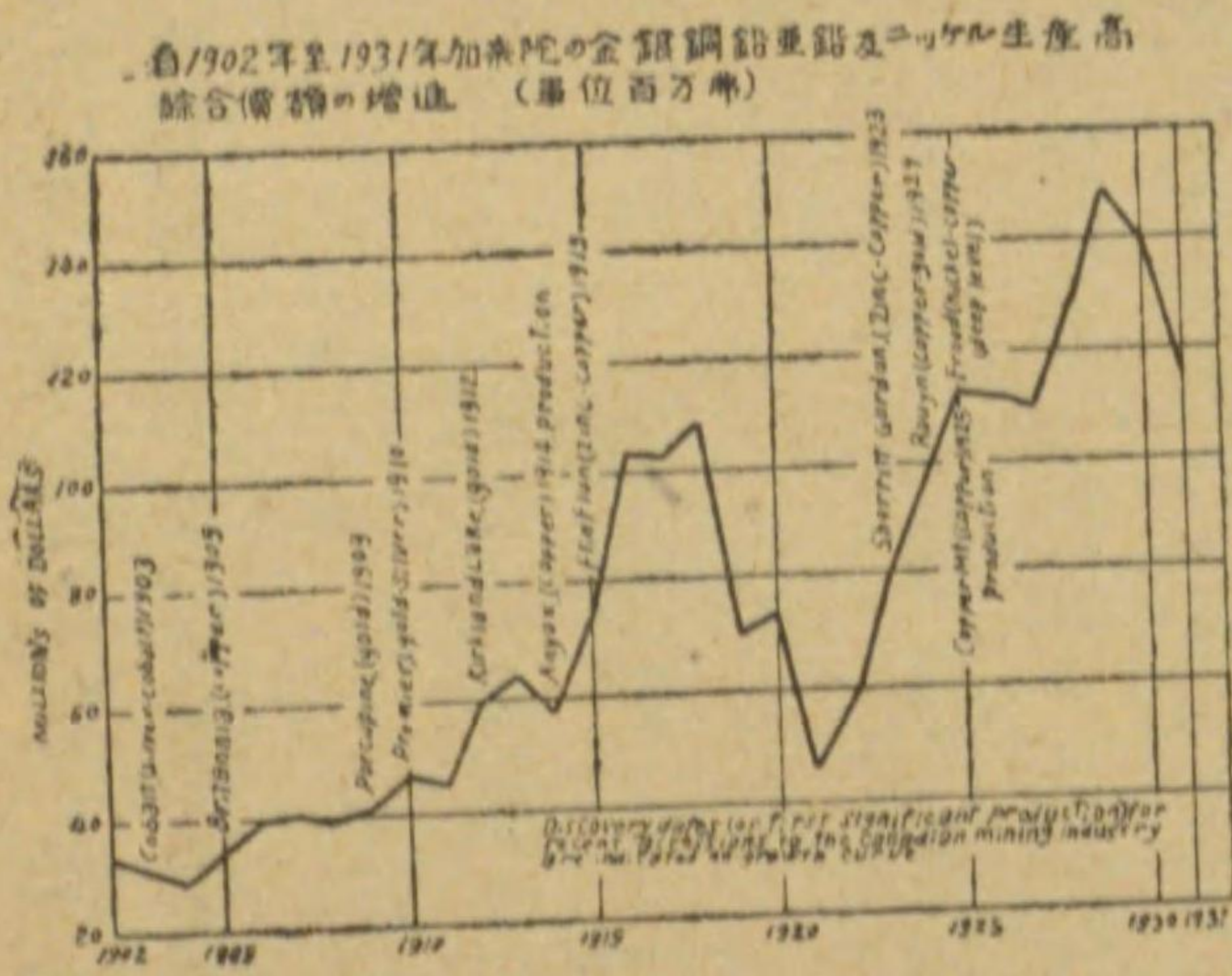
倍て加奈陀の探鑛状態を手短に論じて見よう

一九〇九年 Porcupine に於ける及び一九一二年 Kirkland Lake に於ける、又一九一四年の Rouyn に於ける金の発見は吾人の熟知する所であつて、これが爲め金産額増加し遂に加奈陀は金生産國としては南阿に亞く第二位の現地位を占むるに至つたのである、一九一〇年 Premier に於ける、一九一五年 Pika Plou に於ける及び一九一三年 Sheritta Cold Lake 鑛區に於ける新発見等は興味ある挿話であつた。

一九一〇年以來 Sullivan 鑛山は世界に於ける有數な鉛及び亞鉛の生産地になつて居る、其の他有望なる鑛區が現はれつつあるが、Great Bear Lake, Coffernine River Pascalis 等の名稱は一般的に興味を惹起しつゝあるのである。

亞米利加の技師は一般に加奈陀の鑛産が増加しつゝあるのは認めて居るが(第一圖参照)然し急速に増加

第一圖



しつゝあることは偶々其の數字を調査した人以外には判らない。

亞米利加の生産屯數は人口一億二千三百萬人の生産高であつて、兩國を比較する場合には比較的少ない加

奈陀の人口を計算に入るの必要がある、又比較上の便法としては、實數を比ぶるよりも、二十年以前の兩國の産額を一〇〇とせる指數を以てする方が寧ろ判り易い、即ち第四表に示す通りである。

第四表 一九一九年及一九二九年、一九三〇年に於ける合衆國及加奈陀の金屬生産高
比較指數(兩國とも一九〇九年の生産高を一〇〇とす但し亞鉛は一九一六年を基準とす)

鉛		一九一九年		一九二九年		一九三〇年	
合衆國	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九三〇年
加奈陀	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九三〇年
合衆國	一〇八	一六三	一四〇	九六	七二二	七二六	
加奈陀	一〇八	一七七	一二五	一四八	四七三	五七八	
合衆國	七八	一〇三	八五	一三八	八四四	一、一四五	
加奈陀	九一	一〇六	八三	五八	八四	九六	
合衆國	七八	一〇三	八五				
加奈陀	九一	一〇六	八三				

銀

金		一九一九年		一九二九年		一九三〇年	
合衆國	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九三〇年
加奈陀	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九一九年	一九二九年	一九三〇年	一九三〇年
合衆國	五七	四三	四五	一六九	四二五	四六三	
加奈陀	五七	四三	四五	一六九	四二五	四六三	

此れに依つて見るに例へば亞米利加の鉛産額は、自一九〇九年至一九二九年期間に於て六三%を増加し一方加奈陀の産額は一九〇九年を一〇〇として一九二九年には七二の指數に達し驚くべき急増振りを示した換言すれば加奈陀の産額は合衆國の産額には及ばざるも其の生産高の増加率は合衆國が六三%を増加した期間に於て六一二%を増加したのであつた。亞鉛、銅及び金に於ても殆んど之れと同様な事態を示して居る、唯銀のみに於て兩者の増進傾向がほぼ同じである。

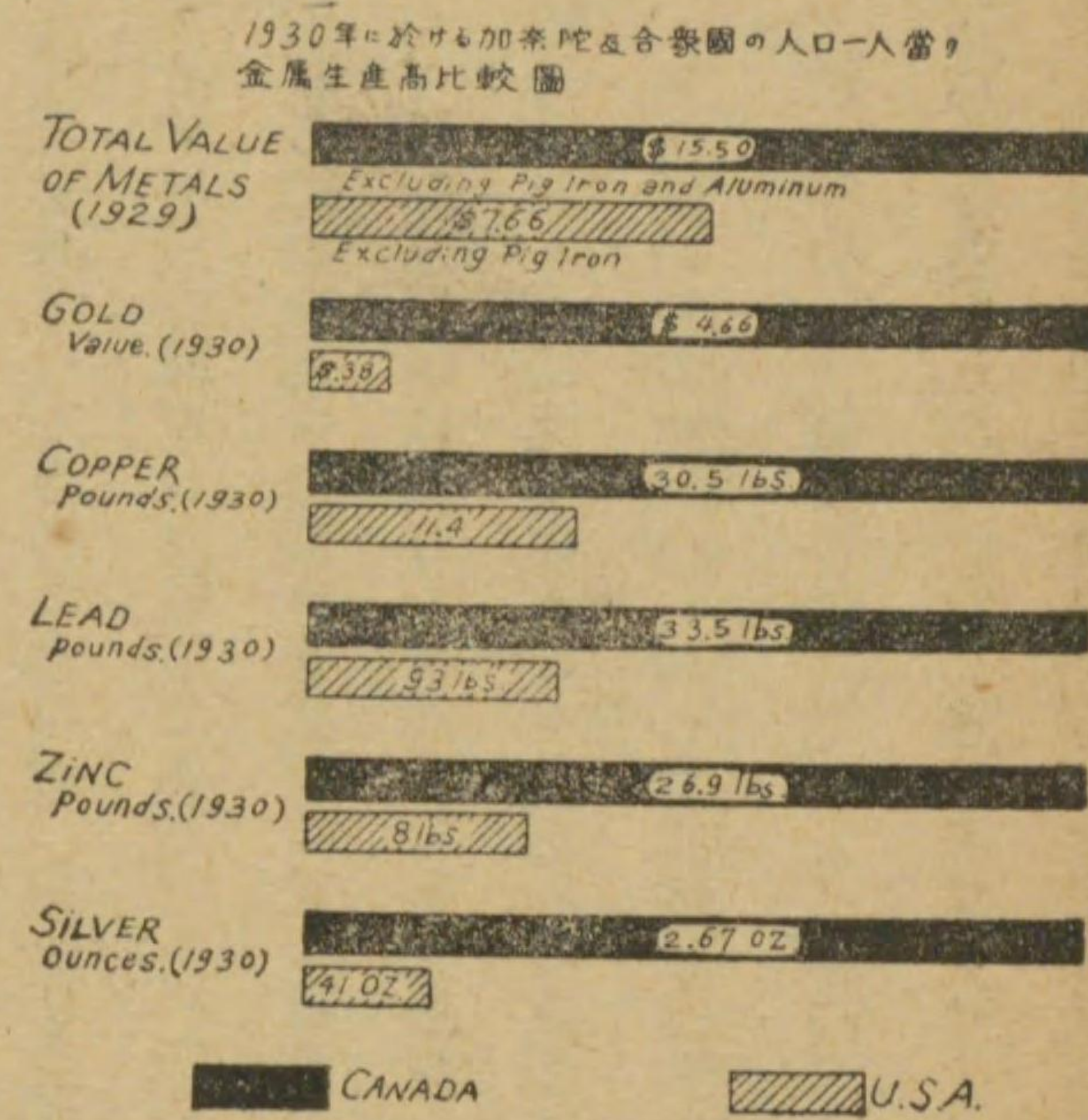
一九三〇年に於ける非鐵金屬の産額は合衆國に於ては減少したが加奈陀に於ては不景氣にも拘らず、鉛は前年とほぼ同じく、亞鉛及び銅は著しく増加して新記録を作つた。

一切の金屬を綜合した一九二九年の人口一人當りの産額は(加奈陀は鉄鐵ミアルミニウムを除き合衆國は鉄鐵を除き)、加奈陀の一五弗五〇に對し合衆國は七弗六六であつた、金屬別の比較は第二圖に示せり。

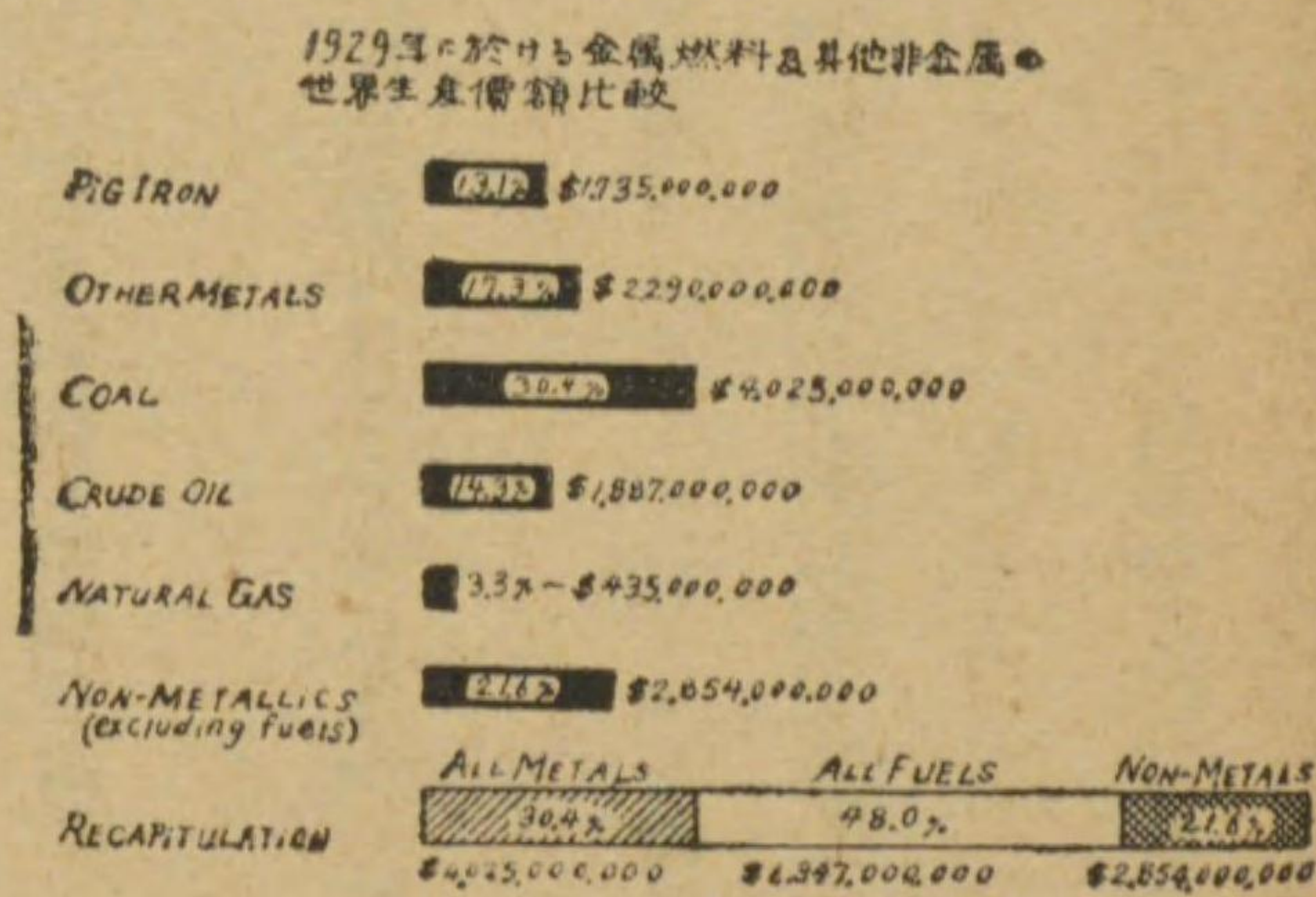
燃料の價値は金屬より大なり

筆者が各種の礦物を考察した限りに於て尙又世界に於ける状態を大體より見たる範圍内に於ては金屬鑛床よりも燃料鑛床の方が一層大で一層價値がある、其の世界的統計は第三圖に示せり。

第二圖



第三圖



一九二九年に於ける一切の鑛物の世界生産高合計價額は概算百三十二億五千弗乃至百四十五億弗を見積らる、此の數字は山元又は鑛鑛工場に於ける價值を示すものであつて、若し石油が精製せられ、石炭に處置が加へられ或は又原料が製品に加工された時の價值を加ふれば、前記の數字が驚く程に増大するであらうこゝは勿論である。

此の方法に於て計算された總計中、燃料鑛物の價額は四八%金屬の價額は三〇・四%及び非金屬の分は一・六%となつて居る、尙金屬價額の内鉄鐵の分は一三・一%其他一切の金屬の分は一七・三%である。

石炭の價額は三〇・四%を占め其他何れの鑛物の價值よりも遙かに大である、實際ペンシルヴェニア州のみの無煙炭の生産高の價額は全世界に於ける金屬の價額よりも通例大である。

燃料の重大性に鑑み、順序として、此の商品の世界的事情に於ける顯著な趨向の二三に就いて概説して見よう。技術方面に關する最近年間に於ける炭業の成功は實に輝かしいものがある。

大西洋の兩側に於ては目下坑内採掘法に革新を起しつゝあるが、合衆國とカナダに於ては兩積(炭車)の機械化を中心として發達し又其他の坑内及び坑外作業にも同様な進歩を示して居る。革新の結果は一日一人當りの生産高に現はれ即ち一九一三年の三・六一屯から一九三〇年には五・〇三屯に増加した。

一方炭業の經濟事情は其の技術的成功の記録に比べ實に不満足なるものがある、所謂世界的燃料の過剰は農産物の過剰と同様で從來之れに就ては屢々論議せられ救済策も講ぜられたが意の如くならなかつた。

石炭の場合に於ける其の根本原因は明らかである、大戰に依る高價格は新炭山の開發と生産能力の擴大を奨励したものである。

斯の如き經濟事情に基因し炭鑛業は長らく受難を續け事業縮少の運命に悩んだのであつた、一九二三年以來稼行を中止せる瀝青炭山三千以上に上り、二十五萬人の採炭夫は其の職を失つた、經營者側の蒙つた財務損失は實に莫大なもので大體に於て利する所皆無であつた。

一九二九年に於ては、二千三百の亞米利加瀝青炭會社の中、利益を擧げたのは僅に九百社で残る二千四百

の會社は欠損に苦しんだのであつたが斯業全體としての純欠損高は一一、〇〇〇、〇〇〇弗に達した（一九二九年）因に一九二九年云ふ年は斯業の歴史中第六番に位する生産高の多い年であつた、同年以來事態が日に増し悪化したのは勿論である。

油に於ても殆んど同じ事情を現出し、生産過剰と價格の低落とは斯業現状の特長である、生産統制の努力に依つて幾分の効果は得られたが然し市場は在荷過多で價格は永らく不條理な低落を續けて來た。

最近吾人は金屬に於ても亦生産過剰の世界的傾向を認むるに至つた、市場の安定に對する協商が提議せられ來つたにも拘らず卑金屬の生産能力は需要よりも急速に増大せるものゝやうである、世界的需要の制限に對する供給の調整問題は一切の礦物生産業者に關係するものである。

吾人は農産物の過剰、石炭、石油の餘剰に關する悲劇を目撃して居る以上金屬に關しても亦警戒するの必要あるを認むるものである。

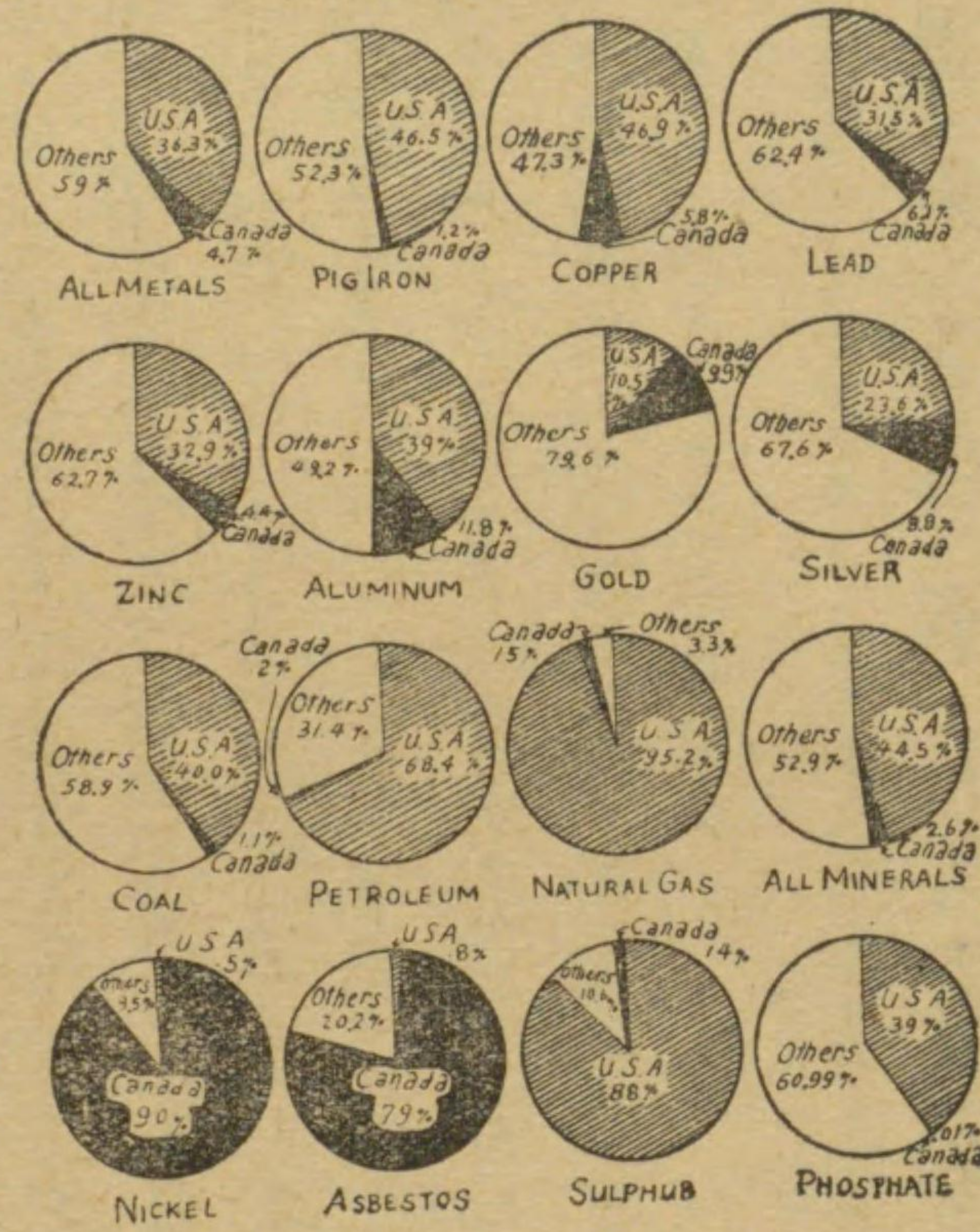
倍て今までは加奈陀と合衆國とが如何なる競争的地位に在るかを示す生産數字に就て主として論じ來つたが、これから兩國が其の資源に關し如何なる補給的事情にあるかに就て説明して見よう。

全體より見て兩國は礦物に關する限りに於ては著しき自給的の合同を成して居る兩國は其の量に於て世界の供給を支配し一九二九年に於ける世界礦産物の總價額中兩國の分は約其の半ばに達し即ち四七・一%を占めて居る、加ふるに礦物の多種多様な點に於ても其の他何れの大陸に比し優つて居るのである。

兩國が大生産國である以上兩者は亦自然大競争國であるであらうことを想はしむ、勿論競争の素質はある然しながら兩國の鑛産關係は競争的であるよりも寧ろ補給的であることを認めねばならぬ、此の補給的關係は第四圖に依つて明瞭に看取せらる、兩國共重要な金屬特に銅、鉛、亞鉛、金、銀の生産國であるも然し

第四圖

1929年に於ける世界鑛産高と加奈陀と合衆國の鑛産高百分比



ながら其の必要材料に對しては互に依頼し合つて居る。

加奈陀はニッケルと高級の石綿とを多量に生産し二者共世界供給高の殆んど全部を占むと同時に又低廉便利な水力電氣の豊富な點に於ても世界に冠たるの地位を有し既に急速に發達しつつある電氣冶金業の基礎と

なつて居るのである。

一方合衆國は、加奈陀の不十分とする油と瓦斯の大資源を有する。同時に其の高度の炭田は中央加奈陀に對する供給資源となつて居る、實際亞米利加炭は合衆國市民の買ひ取る値段よりも低廉な價格に於て加奈陀人に提供せられて居るが亦鐵鋼に於ても合衆國は加奈陀の工業に對し廉く提供し得るものである。

兩國は世界の資源中莫大な分前を享有し居るにも拘らず尙外國の資源に仰がねばならぬ礦物を欠いで居る。其の中從來最も顯著であつたのは、ボタシ、ナイトレート及びブラチナであつたが然し三者共最近の探鑛に依つて兩國の需要に十分應じ得る供給の見込がある。(ブラチナは Sudbury からボタシは亞米利加の西南部から合成ナイトレートは空中窒素から) 北米には尙外國の資源に頼らねばならぬ二、三の礦物を欠いては居るが然しながら本大陸礦物資源の自足を完ふするに必要な若干の錫、滿俺及びクロマイトを此の廣漠たる兩國の地域が今尙包含しない。誰か言ひ得るものがあるであらうか。

(譯者一三宅)

中國鐵鑛と日本との關係

支那鑛業週報第百八十七號記載一蕭純綿

本文は「東三省は果して日本の生命線か？」と題して民國廿一年四月四日北平晨報東北問題欄に記載せられたるものなり
附註一原文中數字其他に不審の點あるも其儘譯し置けり

中國鐵鑛の原來貧弱にして窮乏せることはテイゼン、グレン氏の言明せる如くにして、即ち此の少量の鐵鑛も將來盡く中國人の爲めに利用し得るやは尙疑問に屬するところにして二十年來日本は中國鐵鑛に對し時々自己の有にせんとするの野心を有し其の經營の結果は實に驚くべきものありて現在の鐵鑛中九〇パーセントは盡く日本人の手中に入れり東三省の鐵鑛は既に全部日本人の掌握するところとなれるが、甚だ價值高き接觸變質鑛も亦大部分日本人の支配するところとなれり、最近も宣龍鐵鑛は日本資本家にて權益を獲得せり。聞く。

テイゼン・グレン氏の言ふ所は左表を参照するところによつて承知せらるべし。(「第三次中國鑛業紀要」に據る)

省別	鑛區	鑛量(單位千噸)	公司	公司の性質	現狀	販路
湖北	大冶	一七、三〇〇	漢冶萍公司	官商合辦日本に五千萬元の債務あり且つ鑛石鐵鐵供給契約あり	探	日本へ輸出
	象鼻山	八、五三八	湖北官鑛局	省辦	探	日本及揚子鐵廠へ販賣
	鄂城西山	一〇、二〇〇			未	
遼寧	靈鄉	六、三四〇			未	
	廟兒溝	七四、二七五	本溪湖公司	中日合辦	探	本溪湖製鐵所へ供給
	弓長嶺	二七〇、〇〇〇	弓長嶺鐵鑛公司	中日合辦	未	
遼寧	鞍山諸鑛	四一三、七四〇	振興公司	中日合辦にして製鐵所は完全に日本に屬す	探	鞍山製鐵所へ供給

右表重要鑛區の鑛量は優劣共に合計して約九億五千七百萬噸にして全國鑛量の約九十五パーセントを占む、其の中日資本關係の分は八億〇四百萬噸にして全國鑛量の約八十二パーセントを占む、即ち其の狀態は次の如し。

中國鐵鑛總鑛量	一〇〇%	〔日資關係の鑛量〕	八二%
重要鑛區鑛量	九五%	〔華資關係の鑛量〕	一三%
其他	五%		

右表の示す所は讀者自ら其の意義を知るべきを以て著者は蛇足を加るに忍びず、只茲に申述せんご欲するところは、日本人は鐵鑛資源を以て重要な生命線の一ご爲し而して東三省併呑の理由ご爲せる點なり、則ち結論を究明すれば勢必ず中國全土を擧げて日本の統治に歸し而る後はじめて日本の國防ご工業の生存に確實なる保障を得ごいふにあり。

日本の鐵鑛缺乏は言を俟たざるごころにして近年極力探求すご雖も重要鑛區は實に釜石鐵鑛一個處あるに止るのみ、就ち日本地質調査所所長井上禧之助氏は國際地質調査會議所に提出せる撮要書に於て日本々士の實在鑛量は五千六百萬噸にして朝鮮は四百萬噸ごなせり。

其の後テイゼン・グレン氏は日本最近の調査に根據し次表を示せり。

磁鐵鑛釜石鑛山、岩手	三千五百萬噸
其他	五百萬噸
赤鐵鑛越後陸中其他	三百萬噸
褐鐵鑛全國	一千萬噸
合計	八千萬噸

右の推定數量に對しテイゼン・グレン氏は猶過大を免れずご謂へり。歐洲戰爭期間中需要急迫し未曾有の鐵價昂騰の時に於ても釜石の出産は仍然戰前ご同じく其の他の鐵鑛の鑛量は總計約四千五百萬噸にして戰時に於ける生産も均しく二十五萬噸を越ゆるごご無かりしが如きを以て見ても右の推定數量中には一部分平時に於ては經濟的採掘をなす能はざるものあるを知るべし。然而して日本の鐵鑛々量は極めて少なりご雖も鋼鐵の需要は逐年増加しつごあり、其の需給狀況次の如し。(日本商工省調査に據る)

年	(甲) 銑鐵需給額 (單位千噸)		
	產額	輸移入	輸移出
大正 九年	五二九	三九〇	九
" 十年	四八〇	二七六	五
" 十一年	五五九	四〇九	五
" 十二年	六一〇	四二九	五
" 十三年	五九八	五二〇	七
" 十四年	六九六	四〇二	六
昭和 元年	八二一	五〇八	四
" 二年	九二二	五八〇	四
" 三年	一、一〇九	七二二	四
" 四年	一、一三三	七九四	四
大正 九年	五三七	一、〇三九	九七
" 十年	五六一	六四六	八三
" 十一年	六六二	一、一〇〇	八四

(乙) 鋼材需給額 (單位千噸)

年	(乙) 鋼材需給額 (單位千噸)		
	產額	輸移入	輸移出
大正 九年	五三七	一、〇三九	九七
" 十年	五六一	六四六	八三
" 十一年	六六二	一、一〇〇	八四

需要額

" 十二年	八一九	七九九	九七	一、五二一
" 十三年	九〇六	一、一五四	九一	一、九六九
" 十四年	一、一〇二	五三二	一〇七	一、五二七
昭和 元年	一、三三〇	九二四	一一〇	一、一三四
" 二年	一、四〇〇	八二四	一五六	二、〇五八
" 三年	一、七〇四	八二五	一八〇	二、三四九
" 四年	一、〇三七	八三二	二〇四	二、六六五

右の調査に依るに日本の昭和四年に於ける銑鐵鋼材の輸入高合計一百六十二萬噸にして其の入超價格は一億圓を越ゆ。鐵の需要額は毎年約六パーセントの増加を示し其の國內生産高も亦之れに比例し増加せるが日本製鐵業は其の鑛石の大部分の供給を外國よりの輸入に仰けり。ウォルター・ヤング著「滿洲外交の經濟的因子」の、述ぶる所に據れば、日本國內自産の鐵鑛は僅に其の所産の銑鐵及び鋼材の十分の一を占むるに過ぎず、全國を通計し毎年消費する鐵鑛の六〇パーセント以上銑鐵ミ鋼材の三〇パーセント以上は盡く國外よりの輸入にして自國內の所産の鐵鑛は僅に約二十萬噸に過ぎず、日本の生産鐵鑛も既に自給するに不足し鐵鑛の鑛量も更に其の製鐵の需要に應ずるに足らざるが故に日本の軍閥ミ帝國主義者は遂に貧弱且つ窮乏せる中國鐵鑛に指を染め恤もなく中國四億人の未來の生命線を掠奪せり。二十年來中國は條約の束縛を受け毎年所産の鐵鑛は盡く日本へ輸出され、此の外中國にて製煉せる銑鐵も其の中の大部分は輸出され日本の製鋼

の用に供さる。

之れに反し中國自身は則ち鋼鐵を輸入するが其れは之れ等輸出の四五倍の價值を超過するものにして中國々民が強隣の經濟的搾取を受けつゝあるは此の鋼鐵の一大事に於ても其の一斑を知るべし、惟ふに注意すべき點は此は僅に日本の製鐵業が中國の鐵礦と銑鐵の供給に依頼せることを示せるのみにして此れを以て日本の生命線となし日本軍閥が東三省併呑策謀の大眼目と爲すは不可能なる點なり。東三省は鐵礦に富む雖も且つ日本人の掌握に歸せり離も日本の待むところの輸入の最大部分の鐵礦と銑鐵は斷然東三省にあらざして専ら、長江流域にあり。即ち

湖北省大冶 (光緒二十五年(明治三十三年)盛宣懷と日本人の間に毎年鑛石十萬噸及び漢陽銑鐵若干噸供給の契約を締結せり、後民國二年(大正二年)漢冶萍公司と日本人の間に再び契約を訂結し四十ヶ年内に上述の契約規定以外に公司は日本へ鐵礦一千五百萬噸、銑鐵八百萬噸を供給することを約せり、總計鑛石は三千萬噸前後となり。)

湖北省象鼻山 (民國十四年(大正十四年)より全十七年(昭和三年)に至る間、日本向輸出高、三十七萬七千二百三十噸なり。)

安徽省當塗 (福利民公司と日本と買鑛契約を締結し近く日本人監督の下に開採し日本へ輸出する鑛石は約六七十萬噸なり。又寶興公司も日本との間に賣鑛契約ありて同公司にて民國十六年(昭和二年)に森

格事務所に二十萬噸を販賣せり。)

安徽省繁昌 (裕繁公司是民國三年(大正三年)に日本と四十ヶ年賣鑛契約を訂結し毎日一千噸以下の所産ありしが後に中日實業公司の所有となり。)

等にして其の所産の鐵礦の九〇パーセントは日本へ輸出さるゝが毎年全國産額の約三分の一を占む。

(「中國鐵業紀要」に據る)

日本の使用鐵礦總額の三十七八パーセントを占むるは八幡製鐵所と東洋製鐵所にして均しく大冶及び裕繁公司の鑛石を使用しており又其の外に南洋馬來半島及び非列賓の鐵礦も相當の輸入をなしおれり。

最近十ヶ年の中國長江一帶よりの鐵礦輸入狀況は次表の如し。(「日本經濟の最近十年」に據る)

民國 八年(大正 八年)	五九五、一四〇噸
民國 九年(大正 九年)	六五〇、五二七噸
民國 十年(大正 十年)	四三九、七六九噸
民國 十一年(大正 十一年)	六四四、七三〇噸
民國 十二年(大正 十二年)	六六一、七九六噸
民國 十三年(大正 十三年)	八〇〇、一五六噸
民國 十四年(大正 十四年)	八一三、四九〇噸
民國 十五年(昭和 元年)	五〇二、七四七噸

十六年(二年)	五〇二、五二七噸
十七年(三年)	八七七、八四一噸
十八年(四年)	九五〇、三〇三噸

東三省の鐵礦は盡く鐵分四〇パーセント以下の貧礦にして僅に本溪湖並に鞍山の熔鑛爐に供給しおるに過ぎずして輸出の言ふべきもの無く、且つ朝鮮鑛石の安東大連を経て輸入せらるるものありて民國八年には三萬七千餘噸に達せり、其の後漸減せり。雖も民國十八年(昭和四年)の海關統計に猶二百六十一擔の記載あるを見る。鞍山、本溪湖所産の鉄鐵は年額約二十五萬噸にして多數を日本へ輸入す。雖も須く注意すべき點は漢冶萍公司の日本に供給せる鑛石は實に鞍山、本溪湖兩處所産の總數の二倍なることなり、東三省鐵礦の鑛量は五億八千三百萬噸あれども大概は貧礦にして(滿鐵調査課「滿洲産業統計」一四版に據る)含砂甚だ多く含鐵甚だ少く加ふるに撫順炭は水分甚だ多く揮發性甚だ大にして粘結性に乏しきを以て骸炭製煉に不適にて本溪湖炭を混用せざれば使用に適せず、之れ等の故に其の生産費は甚だ増大となり且つ原計劃は歐洲大戰時代に發生せる爲規模過大にして模範都市建設等の爲め投下せる資本鉅大なるが爲に損失極めて甚大なるなり。田中大將の上奏文に據れば、初期毎年の損失三百萬圓前後にして民國十六年(昭和二年)に於て已に損失二千六百九十六萬圓に達せり、近頃改良せる選鑛方法並に發明せる特殊還元焙燒法によるも毎年の損失尙ほ六十六萬圓なりといふ。(室伏高信著)「滿蒙論」に據る)實に日本は東三省に於ては大なる損失を示

しつゝあるなり。故に鐵礦に就て言へば中國の生命線は實に全く日本の把持するところとなり而して日本の生命線も亦之れを東三省に在り。謂ふ能はざるなり、然而して必ずや資源の出づる所を以て自國の生命線なりと認むべきを以て日本は東三省の外に中國全土、馬來菲列賓をあげて悉く併吞せざれば可きなきざるべし、事の狂妄なる寧ぞ是に過ぐるものあらんや。(譯者一伊藤)

世界主要國最近鐵鋼生産事情ニ獨、白及ル クセンブルク鐵鋼業設備概要

一、歐洲製鋼業の近狀ニ經濟的一觀察

スチール誌歐洲特派員ウインセント・デルポルト氏述

獨逸、佛蘭西、白耳義諸國の工場に於ては電流、瓦斯、鑛滓等を都市に賣却して漸く利益を擧げ其の本來の使命たる鐵鋼の生産品は副産物化するの現狀に在る

曩に歐洲鐵鋼貿易に就て論ずる所あつたが爾來其の一般的事情は依然として好轉せず寧ろ或る場合に於ては更に惡化の事情に在るものがある、世界不況の根本原因に接穂され而して不況を一層濃厚ならしめた主要素の一は「各國が各自の國利を保護せんが爲めに採つた人爲的貿易制限策」であらねばならぬ。

右の制限策中には、關稅率の引上、通貨引渡に關する制限等がある、不景氣の根本原因が依然として排除されざるに加へ人爲的貿易制限は更に擴大さるゝものがあつて、國際貿易は逐日涸渴せんとするの結果を招きつゝあるのである。

歐洲の製鋼高が漸減しつゝあるのは附表に示す通りであつて、又一例として英國の鐵鋼輸出入貿易表に就て見るにこれ亦低減してゐる。大陸諸國も概ね同斷であるが、屯數よりも其の價額の減少度合が大であるのは、世界價格の低準の影響を物語るものである。

輸 出 價 格

現在大陸の鋼片は、一磅一九志で取引されて居るが一年前は三磅二志であつた。又以時鹽基性轉爐鋼板は一九三一年一月の鑄物鉄の相場で現在取引されて居る。輸出市場に於ける殆んぎ總べての大陸鋼は利益無しに取引されて居ると言つても過言でない。實際の話であるが、白耳義、佛蘭西、獨逸の諸工場に於ける鉄鐵鋼は副産物化し、工場は電流ミ瓦斯ミを都市に賣つて或又鋼滓を建築業者、道路請負業者に賣却して利益を擧げて居る現状である、斯くの如き不合理なる事情は獨り鐵鋼業のみに限られたものでなく又此れが爲め失業者を激増せしめて居ることは言ふまでもない。然しながら斯くの如き一般的暗黒事態に光明を與ふる二三の事例がないでもない、即ち白耳義、ルクセンブルク、和蘭は各自間の關稅引下に同意を表しつゝあるが又スカンヂナビヤ諸國も同様行動に出でんとして居る。自國の問題解決の爲めに採つた合衆國の手段は、同

情的關心ミ希望ミを以て歐洲に於て模倣されて居る、又英國に於ける基礎狀態は數年前に比し健全味を加ふるに至り寧ろ大陸諸國より一屬穩健な事情に置かれたと言つてよい。

然しながら一方に於ては是等の諸國は昔日の繁榮を再び招來するの望みなく同時に他の諸外國も亦一齊に不具者化して居る。されば世界の視線は、政治家並に専門家が當面の經濟的諸問題の解決に努力しつゝあるロザンヌ會議に集中されて居るのである。

現在は裁斷的分目の好機である、若し此の好機を捕へず歐洲諸國を政治的負債から救出せないとすれば、或は又調停に失敗し、貿易制限を除去することが出来ないミすれば現在の衰退傾向は依然として繼續し恐るべき結果を將來するであらう、即ち生活標準は一層下降し、一方に於て貯藏を加へ、他方に於て購買力を減殺し失業者を益々増加し遂には生活手段も財政的援助も與へられぬ數百萬民衆の叛亂を招くことになるであらう。

斯の如き事態の危險ミする所は諸種の好ましからぬ要素が加速的結果を以て互に反動することである。世界の經濟組織は、斷崖絶壁に向つて轉下するにつれ勢を増す突然の崩壊に依つて脅されて居る。

之れに反し各國民が常識に立ち歸るミすれば世界の難局は打開さるゝであらう。病狀の恢復に或る期間を要することとは言ふまでもない、然しながら若し比較的大きい諸問題が相互の讓歩に依つて解決さるゝならば難局の救済は容易であらう。

國家主義の阻碍

時局に關し最も難件とするもの、一は各國毎に意見を異にし且利害の相反する點にあるが此の難件は激化する國家主義傾向に依つて増大されて居る、故に國際會議に於て國を代表する人々は正當なる決議を爲すことが出来ない、何となれば其の決議が各自の議會に依つて受諾されないであらうことを恐るゝからである。各人を満足せしむるやうな解決は見出さるるものではない、各自讓歩的態度に出で他人の見地から問題を觀察するやう留意せねばならぬ。

條約及協定の神聖は忘れてはならない然し又事態は變移するもので、或る時期に正當で可能であつた或る處置は現在に於ては事情の變化に因り或又經驗が過去の誤りを見出すことに依り不可能なることがあらう故に條約改正の必要あるときは相互の同意を以て行ふことを忘れてはならぬ。又吾人は容易に動かすことの出来ない基本的經濟法則のあることを認め置くの必要がある。現在の經濟危機を招けるものは、善意に於て成されたるも先見の明を缺ける企てから、需給の鐵則に違反するが如き或る種の狀態を醸成せるのが其の主因を成して居る。

第一表 歐洲製鋼高の急減(單位噸)(自一月至五月生産高)

英國	一九三二年	一九三一年	一九三〇年	一九二九年
	一、六四四、二〇〇	二、二五六、七四〇	三、八二一、七八五	四、一三三、一七五

佛國	二、二九八、〇〇〇	三、五一〇、〇〇〇	四、〇六一、〇〇〇	四、〇二〇、〇〇〇
獨逸	二、四二六、九七五	三、八三一、三五五	六、七二〇、一三五	六、九二九、八六五
白耳義	一、二三四、一〇〇	一、二三九、九五〇	一、六〇七、五四〇	一、六九〇、二三〇
ルクセンブルク	七七七、〇〇〇	八三七、一一〇	一、〇四三、七三五	一、〇九七、〇四五
ザール	六一一、〇三五	七二六、〇〇〇	八九五、〇〇〇	八九六、六三〇
合計	八、九九二、三一〇	一二、四〇一、一五五	一八、一五〇、一九五	一八、七四六、九四五

第二表 英國の鐵鋼輸出入(自一月至五月)

年次	輸 入		輸 出	
	噸數	價額(磅)	噸數	價額(磅)
一九三二年	八四一、四一四	四、九二四、〇三三	八〇五、二七八	二二、〇〇五、九七五
一九三一年	一、〇三〇、四四三	七、四八五、五六一	八三六、五九六	一三、四三二、四三九
一九三〇年	一、三二八、五三五	一〇、七八〇、八一四	一、五四六、五七一	二四、五五五、七四九
一九二九年	一、一〇五、五九七	九、八八二、一四八	一、九三三、九八二	二九、三〇〇、六六九

以上「スチール」一九三二年七月十八日所載

二、昭和六年主要國鐵鋼需給額調 單位千噸

英國

鋼	鋼	銑	獨	鋼	鋼	銑	佛	鋼	鋼	銑	米	鋼	鋼	銑	生 產	輸 入	輸 出	需 要	需要對生產割合
材	塊	鐵	逸	材	塊	鐵	國	材	塊	鐵	國	材	塊	鐵					
五、八六一	八、二九二	六、〇六〇		五、三八五	七、八二四	八、一九六		一九、四八四	二五、二九六	一八、五六四		四、七六四	五、二五六	三、八一六	三、八一六	三、一〇〇	二〇五	三、九二一	九七・三%
六二八	八九	一一七		一五五	九〇	八八		二七七	二〇	八六		一一、二一一	一、三七六	一、三二〇	一、二二一	一、七九七	九	六、六三三	七九・四
三、二六〇	四〇九	一七八		一、三三二	一、八一九	四二七		七三七	九八	七					一、七九七	七三七	七	四、一七八	一一四・〇
三、二二九	七、九七二	五、九九九		四、二一八	六、〇九五	七、八五七		一九、〇二四	二五、二一八	一八、六四三									
一八一・五	一〇四・〇	一〇一・〇		二二七・七	二二八・四	一〇四・三		二〇二・四	一〇〇・三	九九・六									

鋼	鋼	銑	日	備 考
材	塊	鐵	本	
一、六四四	一、八六八	一、四一八	一、四一八	(一) 半製品の輸出入は鋼塊中に (二) 英國銑鐵中には合金鐵を (三) 日本銑鐵生産中には滿洲鐵を含む
二六八	二六	二六	一五八	資料 "Steel, Iron & Coal Trades Review"
七〇	一	一	一、五七六	
			一、八九四	
			一、八四二	
			八九・三	

三、合衆國各種事業の發達事情、用途別鋼材消費高、品別鋼材生産高及び價格變動一覽
 (1) 合衆國用途別鋼材消費高の過去現在 ("Steel" July 18, 1932.)

建 築 業	自 動 車 業	鐵 道	石 油 瓦 斯 水 道	輸 出	其 他 一 切
自一九二二至一九三一年平均	六、〇八二、一八五	九、三四二、六九一	四、〇八二、七八五	二、三七八、八六七	一四、九三九、九八一
一九三二年(見續)	二、二八一、七七三	二、二六一、七〇三	一、五〇五、二二九	六、三三二、九六三	六、一六二、九四八
六、三四五、八五六 英屯	六、〇八二、一八五	九、三四二、六九一	四、〇八二、七八五	二、三七八、八六七	一四、九三九、九八一
二、五九三、六二五 英屯	二、二八一、七七三	二、二六一、七〇三	一、五〇五、二二九	六、三三二、九六三	六、一六二、九四八

(口) 合衆國各種事業發達事情一覽 Progress in America: Can It be Stopped?

	一九〇〇年	Today*
Population	七五,九九五,〇〇〇	一三四,八二二,〇〇〇
National wealth	八八,五一七,三〇七,〇〇〇弗	三六一,八〇〇,〇〇〇,〇〇〇弗
Saving's bank depositors, number	六,一〇七,〇八三	一四,二五六,八三四
Saving's bank deposits, total	二,四四九,五四七,八八五弗	一一,一三四,六一一,〇〇〇弗
Rural roads miles	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇九,〇六六
Rural roads, surfaced miles	一四〇,〇〇〇	七三〇,〇〇〇
Rural roads, high type surface, miles	一〇	一四五,〇〇〇
Automobiles, passenger and trucks, in use, number	八,〇〇〇	二五,八一四,一〇三
Automobiles, passenger, in use, number	八,〇〇〇	二二,三四七,八〇〇
Automobiles, trucks, in use, number	〇	三,四六六,三〇三
Automobile trailers in use, number	〇	三四九,九三〇
Tractors on farms, number	〇	八五三,〇〇〇
Motorbuses operating, number	〇	九五,四〇〇
Railroads, miles of main line	一九三,三四六	二四九,〇五二
Railroad freight cars, number	一,三六五,五三一	二,三三二,二六七
Railroad freight cars, ave. capacity, tons.	二九・四	四六・六
Railroad passenger cars, number	三四,七二三	五三,五八四

Railroad locomotives, number	三七,六六三	六〇,一八九
Ships, American Merchant Marine, number	二,三三三,三三三	二五,四七一
Ships, American Merchant Marine, tons	五,一六四,八三九	一五,九〇八,二五六
Airplanes licensed, number	〇	八,〇〇〇
Airports, recognized, number	〇	一,七八二
Petroleum pipe lines, miles	一,〇〇〇	一,一一六,八〇
Buildings, highest stories	二〇	一〇二
Buildings, highest feet	二八六	一,二四八
Bridge, suspension, longest span, feet	一,五九六	三,五〇〇
Bridge, cantilever, longest span, feet	一,七一〇	一,八〇〇
Bridge, steel arch, longest span, feet	八四〇	一,六五〇
Bridge, steel truss, longest span, feet	五四六	一,〇〇八
Subways in New York, miles	〇	四〇四
Moving picture theaters	〇	一三二,〇〇〇
Golf clubs, private, number	※※	五,八五六
Homes using electricity	※※	一〇,四三八,七七四
Vacuum cleaners, number	〇	九,〇八六,〇五三
Electric irons, number	〇	二〇,〇〇〇,五〇〇
Electric washing machines, number	〇	七,一八五,〇〇〇

酸性 379,168"
 轉爐鋼 3,033,446"
 坩堝鋼 1,547"
 電氣鋼 410,942"

鹽基性平爐鋼生產高の中には、轉爐に於て一部精煉された金屬を鹽基性平爐で仕上げた再製鋼九四五、八四四屯を含む。

合金鋼昨年の生産高次の如し

一、四五五、九一三屯（一九三〇年 二、四四三、三一一屯）
 内 鹽基性平爐鋼 一、一三一、四九二屯
 酸性平爐鋼 五七、八六四"
 轉爐鋼 三四、〇四四"
 坩堝鋼 四〇一"
 電氣鋼 一三三、一一三"

昨年の壓延鐵鋼材生産高次の如し

軌條 一、一五七、七五一英屯
 厚板、薄板 六、三九、五八一"

線材 一、八四四、六二〇屯
 構造用形鋼 二、〇六一、八五八"
 マーチャントバー 二、四四四、三九五"
 其他の壓延鐵鋼材 五、六二六、六八九"
 合計 一九、一七五、八九四"
 内 鐵材 一八八、七二六"
 鋼材 一八、九八七、一六八"

厚板及薄板の生産高内譯次の如し

ユニバーサルプレート 六一四、八三七屯
 剪斷プレート 一、三五一、三七五"
 黒薄板 二、五三八、〇一四"
 黒厚板（鉄力壓延機で壓延せるもの） 一、五三五、三五五"

生産高合計中鐵、三四三屯で残は全部鋼 其他の壓延鋼材内譯次の如し

フープ 五六、〇〇三英屯
 ボーリングバンド及コットンタイ 五七、一一二"
 欄目板 三八九、五七九"

鋼 矢 板	七三、六七〇
鐵道枕木	一四、二四六
フォーディングブルーム、ピレット等	一一四、六六四
ブルーム、ピレット等(輸出用)	一、九六〇
管 用 材	七三二、五六九
ポルトナットチエン等の製造用竿	四二二、六三三
パイプ及チューブ	
鍛接せるもの	一、二二一、三六一
繼目無し	七一七、四〇八
鋳力板及ターンプレート	
鋳 力 板	一、五五九、二九五短屯
ターンプレート	七四、七二二
亜鉛引薄板	九〇九、七三七

四、主要國最近鐵鋼生產事情一覽(單位千噸)

操業高爐數	銑鐵生產高	鋼塊及鑄物生產高		壓延鋼材生產高	
		前年	前年	前年	前年
一九三二年四月末現在	一九三二年四月末現在	一九三二年四月	一九三二年四月	一九三二年四月	一九三二年四月

英 國	△七〇基	△七九基	三三二千噸	三三八	四四〇	四〇四	四〇七	三七一
米 國	六〇	※二一六	八六六	二、〇五二	一、二六〇	二、七六六	未詳	未詳
獨 逸	四〇	五八	三三六	五二九	五二一	七四三	四〇〇	五二八
佛 國	七九	一三三	四五九	七三八	四五七	六七五	三二五	四七五
白 耳 義	四〇	四三	二四五	二五八	二五四	二五一	一八九	一九九
ルクセンブルク	二二	二四	一五九	一七一	一六一	一六六	未詳	未詳
日 本	一四	一三	一三四	一一六	一九九	一五五	一五八	一三七
露 西 亞	一〇〇	一	五一六	四一三	四九二	四五〇	未詳	未詳

註 △印は四、五、六月中の平均。 ※印は四月一日現在操業高爐數(昨年四月中の銑鐵生產高は前月より約一萬四千噸を減し居るを以て四月末現在高爐數は恐らく之れより二、三基を減したるべし)。

米國の分は鑄物を含まず

米國五月末現在操業高爐數 五四基

〃 六月末 〃 四八基

現在高爐總數 二九七基

參考文書 Iron & Coal Trades Review, Bulletin Mensuel De Statistique, Steel, Iron Age.

五、獨逸鐵鋼業設備事項概要(一九三〇年の數字)

Iron & Coal Trades Review, June, 3, 1932.

一、骸炭爐工場
工場數 一四〇
操業爐數平均 一三、七八五 (內副產物回收爐 一三、七五二)
現在爐數 一八、七三八 (內) 一八、七〇三

二、鑄鐵爐工場
工場數 四三
年末現在爐數 一五八基
操業爐數平均 一〇七基
原料消費高

鐵鑄石及含滿俺鐵鑄 一四、八七七、三五一噸
滿俺鐵鑄 (滿俺分三〇%以上) 二四八、五六一噸
紫 鑄 石 一、三八五、五五二噸
屑 四九八、二八五噸

各種のスラグ及シンター
Additions 二、四六六、八九八噸
二、〇五七、一七九噸
九、五五四、〇二二噸
骸 炭 九、五五四、〇二二噸

生産高 (銑鐵及直接鑄物) 九、六九八、四二一噸
備役職工數 (被保險者) 一六、六六七人

三、製鋼工場
工場數 七九
備役職工數 (被保險者) 二二、三三三、五三八
年末現在工場設備

鹽基性轉爐 七一基
酸性轉爐 八基
鹽基性平爐 三三三基
酸性平爐 二五基
電氣爐 五三基
坩堝爐 六四基

原料消費高 七、五九九、七八六噸
銑 鐵 四、八三〇、〇二五噸
屑 一七八、九一三噸
鐵鑄石

Additions
一、一七四、三八九噸
鋼塊生產高
一一、二四四、八二九噸

四、壓延工場

工場數

一三三

備役職工數(被保險者)

七〇、九八七人

鋼材生產高(參照の爲め他雜誌掲載の數字を譯者に於て附記せるもの)
八、一五二、〇二五噸

六、一九三一年のルクセンブルク鐵鋼業設備概要

Iron & Coal Trades Review, June 17, 1932.

一、鑄鐵爐工場

一九三一年

一九三〇年

高爐現在數

四六基

四五基

操業高爐數平均

二五基

二八基

職工備人員平均

五、〇六三人

六、三六四人

鑄石消費高

四、〇〇八、六〇〇噸

五、一七四、五六九噸

國內鑄石

三、一八七、六二九噸

三、九六八、四三九噸

外國鑄石

該炭消費高

二、三六四、四四八噸

三、〇四一、六三四噸

銑鐵生產高

二、〇五三、〇九八噸

二、四七二、九〇八噸

內鑄物銑

二五、四四七噸

五一、一四七噸

鹽基性銑

二、〇二七、六五一噸

二、二四一、三七六噸

備考

一九三一年の生産高にはフォーヂアイアンを含みます。(一九三〇年のフォーヂアイアンの生産高三八五噸)

二、製鋼工場

一九三一年

一九三〇年

工場數

七

七

備役人員平均

二、四四六人

二、八四三人

原料消費高

二、〇八九、七三九噸

二、四一八、一七〇噸

銑

一八〇、四八二噸

二二七、一九七噸

石灰石及ドロマイト

二六八、九三六噸

三六六、七六八噸

製鋼高

一一、〇三四、九五三噸

一一、二六九、八九二噸

内鹽基性轉爐鋼

二、〇二七、三〇六噸

二、二六〇、二七六噸

平爐鋼

四、八一四噸

五、六三三噸

三、壓延工場

電氣爐	二、八三三瓩	三、九八三瓩
工場數	一九三一年 六	一九三〇年 六
備役人員平均	七、五七〇人	八、二九人
鋼塊消費高	二、〇二一、六七一瓩	二、二四三、六五四瓩
鋼材生產高		
半製品	二二三、〇五七瓩	二一六、〇三三瓩
軌道材料	一一三、二五五"	一五六、二五七"
ジョイスト其他の大形物	二九一、三七〇"	四六〇、二三七"
バー及小形物	七九六、五一八"	七七六、五二三"
線材	九七、四〇一"	一一三、〇三三"
フープ	七二、〇四三"	七七、八六九"
厚板、薄板及平鋼	一〇一、六一七"	一一五、一八八"
屑	二五四、五四九"	三三三、七九八"
四、鑄物工場	一九三一年	一九三〇年

工場數	一四	一四
備役人員	九一一人	一、二六八人
銑鐵消費高	一九、二五七瓩	二九、六四七瓩
屑消費高	一四、三三三"	二四、九四七"
鑄物生產高(鐵及鋼)	三〇、一八二"	四八、二八八"

七、白耳義の鐵鋼業設備概要 (一九二九年の分)
 Iron & Coal Trades Review Sept. 25, 1931.
 (一九三〇年の分は前號掲載)

一、鐵礦石生產高	一九二九年	一九二八年	一九二九年
	一五〇、四四〇瓩		一六四、四二〇瓩
一、鑄鐵工場			
工場數	一六		
年末操業高爐數	五九(前年より三基増)		
備役人員平均	七、七〇三(一九一三年操業高爐五四 備役人員五、二八九)		
鑄石消費高	一〇、三〇〇、五六〇瓩		
内佛蘭西鑄石	八、二二五、〇五〇"		

ルクセンブルク	一、四一七、四二〇	噸
瑞典	四八八、六九〇	噸
西班牙及北アフリカ	三三、九六〇	噸
國內鑛石	一四五、四四〇	噸
骸炭消費高	四、二〇九、九五〇	噸
内 國産骸炭	三、七三一、六五〇	噸
輸入骸炭	四七八、三〇〇	噸
外國骸炭消費割合	一九二九年 一一、四%	
滿俺鑛石消費高	一九二八年 四、六%	
内 英領印度滿俺	一四六、〇六〇	噸
アフリカ	八四、二八〇	噸
ロシア	三一、九四〇	噸
ブラヂル	一四、七六〇	噸
	五、九九〇	噸
其他の外國及國內一鑛山	殘額	
銑鐵生産高	四、〇四〇、五三〇	噸
内 含燐鑛物銑	一一五、〇三〇	噸

二、製鋼所		
(イ) 工場數	一四 (鑄鑛工場を有するもの)	
備役人員數	五、六三一人	
銑鐵消費高	三、七八九、八七〇	噸
外國銑	二三一、七八〇	噸
鑛石消費高	一、七七〇	噸
屑 消費高	三六一、七二〇	噸
骸炭消費高	七三、七九〇	噸
石炭消費高	六三、七四〇	噸
鑄鑛爐瓦斯消費高	六四六・二五百萬立方米	
骸炭爐瓦斯	一三一・二一百萬立方米	
ヘマタイト鑛物銑	三三二、八〇〇	噸
フォーヂアイアン	四一、三四〇	噸
鹽基性銑鐵	三、八三七、四六〇	噸
特種品	一三、九〇〇	噸

三、鋼鑄物工場

平 爐	九
銑鐵消費高	三三、五三〇 瓩 (大部分外國銑)
鑄石消費高	一一〇〃
屑 消費高	八四、二一〇〃
鋼塊生產高	一〇三、〇六〇〃
鋼鑄物生產高	四、四八〇〃
工場 數	一七
キユボラ	三三三
小形轉爐	三八
平 爐	五
電氣 爐	二
銑鐵消費高	五七、九八〇 瓩 (大部分輸入銑)
傭役人員	五、八五二人
鑄石消費高	一、八五〇〃
屑 消費高	五七、三七〇〃
鋼鑄物生產高	七一、二四〇〃

電力消費高	七九・六八百萬キロワット時
混 銑 爐	一七
キユボラ	一一二
鹽基性轉爐 (二二―二五屯爐)	五一
小形轉爐 (二五―二屯爐)	三
平 爐 (七―二五屯爐)	二〇
電氣 爐	三
鋼塊生產高	
鹽基性轉爐鋼	三、五九五〇七〇 瓩
平 爐 鋼	二九七、三二〇〃
電氣 鋼	一三、七四〇〃
鋼 鑄 物	二四、五九〇〃
(ロ) 銑鑄爐を有せざる工場	三
傭役人員	八〇三人
キユボラ	一
小形轉爐	二

鋼塊生産高合計 四、〇〇九、一九〇 吨
鑄物生産高合計 一〇〇、三二〇 "

四、鍊鐵 工場

工場 數 (攪鍊鐵を生産)

三 (全部 Hainant 地方に在り)

傭役人員

一八五人

攪鍊 爐

一二基 (一九二三年 一一〇基)

銑鐵消費高

一四、〇二〇 吨 (大部分輸入銑)

石炭消費高

九、五六〇 吨 (殆んど全部自國炭)

鍊鐵生産高

一一、一三〇 "

五、壓延 工場

(イ) 製鋼所を附屬するもの

(ロ) 製鋼所を有せず他より半製品を購入するもの

(イ)の工場數

一八

ブルーム、シートバー壓延機

一四台

形鋼壓延機

四六台

内 大形物用

一〇

中形物用 一三台

小形物用 一三三 "

線材壓延機 五 "

厚板薄板壓延機 一七 "

内 厚板用 八 "

中板用 五 "

薄板用 四 "

半製品生産高 七八六、六一〇 吨

鋼製品 " 二、六四六、八六〇 "

鐵製品 " 一七、〇〇〇 "

傭役人員 一七、五八八 (全壓延工場傭役人員の三分の二以上)

(ロ)の工場數 二六

ブルーム及ピレットの消費高 二七一、七〇〇 吨 (半數以上輸入品)

シートバーの消費高 二二六、八四〇 "

攪鍊鐵の消費高 一四、三六〇 "

屑消費高 一五八、六〇〇 "

車軸及タイヤ	二三、八九〇
竿	三三三、一六〇
フ	六五、〇六〇
平	一〇三、六九〇
厚	三八六、八八〇
中	一九五、七七〇
薄	二二二、八二〇
フォーディング	一、二二〇
以上鋼材合計	三、一一四、六一〇 越
鐵製品合計	一五三、四六〇
内マーチャント鐵	一三三、三二〇
特殊形物	五、三三〇
薄鐵板	一四、八二〇
尚全國合計四四の壓延工場に於ける原料の消費高合計次の如し	
鋼塊消費高	三、七七〇、七二〇 越
ブルーム及ピレット	四五二、七九〇

鋼製品生産高	四六七、七五〇 越
鐵製品	一三六、四六〇
形物壓延機數	二三台
内 小形物用	一七
厚板薄板壓延機	六八
内 中板用	一三
薄板用	五四
備役人員	八、五二〇人
右二種壓延工場の鋼材別生産高次の如し	
半 製 品	七八六、六一〇
マーチャントスチール	八九〇、七二〇
特殊形物	四一五、五〇〇
ジョイスト及チャンネル	二〇〇、八五〇
レ	一六三、三二〇
レール附屬品	四七、二四〇
枕 木	八四、五〇〇

シートバー	二八二、三二〇
攪鍊鐵	一四、四五〇
屑	一八一、二五〇
石炭	五二八、四四〇
骸炭	一七、九一〇
其他の燃料	八、〇五〇
鑄鐵爐瓦斯	一、〇二九、三三三萬立方米
骸炭爐瓦斯	一五二、八三三萬立方米
電力	三六八、五七七キロワット時

露西亞クズツク製鐵所製鉄開始 (ノヴォシビルスク)

昭和七年四月三十日附在ノヴォシビルスク中村領事館事務代理報告

一、第一鑄鐵爐操業開始の成績

豫て裝備を急ぎつゝありしクズネツク製鐵所第一鑄鐵爐は、三月末漸く準備完成したるを以て、三十一日裝入を四月一日火入を、同三日第一回の出鉄を行ひ茲に初めてクズネツク製鐵所は、最初の鉄を産出する

に至れり。

クズネツク製鐵所の製鉄はシベリア製鐵業(小規模のものを除き)の嚆矢なる丈に、當地方一般社會に異常の反響を與へ、就中各工場及産業團體は感激裡に之を機とし舉つて衝撃運動を起し、事業上の破綻の清算課題の超過遂行を宣揚する所ありたり。

前號第一鑄鐵爐はソヴィエト聯邦有数のものにして、技術的に完備せる點に於て、歐米の夫に比し遜色なし。其の内容積は八二八立方「メートル」、出鉄能力一晝夜七五〇屯、技術的設備の完全せる爲、生産労働者は一交替に三二人にて足り、一人當り産出高は年二八一千「ルーブル」にも達すべく、電動力は生産労働者一人に付一〇「キロワット」の割合にして、殆んゞ人力を煩はす仕事なく、全然機械力に依り操業せらるるものなりし。

裝入作業は自動裝入裝置に依るを以て、臺車運轉の一機關士を以て足り、裝入床上人影を認めず。爐の構造は裝入をして爐況及還元原料の性状に適合にせしめ得べく、計量器に依り裝入者は爐の熱度及裝入原料の深度を精確に知り能ふ言ふ。

該鑄鐵爐は四基の熱風爐を備へ、送風機關はニアトモスフェアの烈風を一分間に一・一九〇立方「メートル」送入す。(一屯の鑄鉄に對し三・一七〇立方「メートル」の送風を要す。)出滓口及出鉄口の開閉亦機械化せらる。

製鉄作業は概して順調に行はれ出鉄量は漸増の傾向を辿り四月二十日前後既に平均五〇〇屯を出すに至れり。骸炭の効率に歐米の最高標準に近く、品質亦ソヴィエト聯邦一般の規格を破り優良と稱せらる。一晝夜の出鉄回数は四月二十四日初めて六回となりたるも、其の後も平均五回なり。右は給電、給水の不圓滑、就中工場内部運輸の不整備に基因するものなり。

二、クズネットク製鐵所設備の概要

クズネットク製鐵所（綜合工場）は當初製鐵年産三〇萬屯に基準を置き設計せられたるが、後數次の變更を経て一九三〇年初頭、其の生産能力を一百万屯にするに確認せられたる處、同年十月製鐵所建設團體に依り更に二〇萬屯追加の計畫提出せられたるを以て、結局右計算に基き建設せられつゝあり。

該綜合工場完成し全能力操業開始の曉には、鉄鐵二二〇〇千屯、鋼鐵一四五〇千屯、鐵製品一一五〇千屯、骸炭一二〇〇千屯を年産し、電力一〇一六〇千「キロワット」を給す。

製鐵所全所産中の半は鐵道軌條の占むる所にして、他は繼目板、鋼板、線材等なるが、此の外に數萬屯の鑄鐵品を出す。其の内二―三千屯は良質の鑄鋼品とす。

クズネットク製鐵所は六大主要工場より成る。即ち製鉄（高爐）製鋼（マルチン爐）、壓延、骸炭化學中央發電所及水道之なり。此の外に該綜合工場は多數の分工場を有す。

尙前記主要工場に就き略述する所次の如し。

製鉄工場 製鉄工場は四基の鑄鐵爐より成る、第一期建設の二基（内一基は前述の通り既に操業開始、他の一基は近く火入の見込）の製鉄能力は一晝夜一六〇〇屯、第二期建設の二基は各々一〇〇〇屯を製鉄す。孰れも最新式のものにして、冶金技術の達成を誇るものと言はる。

斯くの如く製鉄年産一百二十萬屯を有するクズネットク製鐵所は、マグニトゴルスク工場と共にウラル・クズネットク・コムピナートの双壁をなし、ソヴィエト聯邦製鐵界に顯要なる地位を占むるに至るべし。五ヶ年計畫末の一九三三年には右二大製鐵所は、聯邦總製鐵高の二一・七六%（一千七百萬屯中三百七十萬屯）を出すべし。

製鋼工場 製鋼工場はマルチン爐一五基を有し、其の製鋼能力は一、四五〇千屯にして、全聯邦製鋼の一〇%、世界産額の一・五%を占む。

壓延工場 本工場は年一、一五〇千屯の生産能力を有する分塊機、五六〇千屯の生産能力を有する軌條轉機、五九〇千屯の生産能力を有する各種壓延機を備ふるに至るべく、該工場に電力を供給する爲めには二〇―三二馬力を要し、起重機的能力は三七二屯、製品を工場より運出するに毎日貨車二百輛を要す。

本工場は棒鋼、鋼板、線材等の製成品を出すものなるが、獨り軌條壓延機のみにて、年々鐵道八千「キロメートル」敷設分の軌條を出す豫定なり。

加之電氣骸炭製造、水道、運輸等も夫々製鐵所操業上至大の意義を有するものなるが、綜合工場敷地に建

設せらるべき中央發電所は完成後の能力は一〇一六〇千「キロワット」の豫定にして、聯邦最大の一に數へらるべく、給電は單に工場に止まらず、テリベス鐵鑛區及び隣接炭坑區（アラリチエウスキー、オシノールウスキー、プロコビエウスキー）にも及ぼす計畫なり。

三、クズネットク製鐵所建設の沿革

一九二九年六月テリベス・ビュロー（テリベス冶金局）をクズネットク工場建設管理局に再組織し事務所をトムスクに置く。ゴルブノウスキー廣場（工場敷地）に建設事務所を開き、工場建設事業を開始し、八月初の小發電所竣成、一九三〇年二月管理局をトムスクより移轉し、三月製鐵工場建築を開始す。十一月汽罐、機械銀冶耐火、修繕、建築各工場竣工せり。

一九三一年一月鑄鋼工場起工、三月トミ河底に二百米の給水坑道敷設せられ、十一月七日クズネットク工場第一期建設工事の大略完成す。

一九三二年四月クズネットク製鐵所第一回の出鉄を行ふ。

尙本年度第二期中には建設事業大に強化せらるゝと共に、有力なる多くの工場は其の操業を開始するに至るべし、市、區發電所、第三、第四汽罐、第三送風機の据付並に第二鑄鐵爐の附屬機械の裝備及び試験は近月中に終了の豫定なり。

製鋼工場に於ては二基マルチン爐は近々他の二基（製産能力各一晝夜鐵鋼一五〇屯）は六月中に完成し、

同時に瓦斯發生裝置及び變電所等の設備も成る筈なり。

壓延工場に於ては灼熱爐の築造分塊機及び軌條轉機及びローラ矯正機の据付及び冷却裝置等の設備完了すべし。

製鉄工場に於ては第四鑄鐵爐及び熱風爐の基礎工事、第三鑄鐵爐、瓦斯清淨機、汽罐取付工事、熱風爐の基礎工事、流鑄場等々次々に終了の見込なり。

註 本製鐵所の所在……テリベス鑛産地帯の中心地を流るトム河畔クズネットク町の近くに在り西伯亞大アルタイ山脈の山麓に座しトムスクの南方二百七十哩の地點（製鐵所參考資料第五〇號一七頁參照）

本邦硫化鐵鑛調査概要

昭和七年三月鑛山局調

大要

一、鑛床の種類

硫化鐵鑛は白鐵鑛、黄鐵鑛及び磁硫鐵鑛を總稱せるものにして、之れ等の鑛物を主産するものを擧ぐれば左の如し。

(イ) 裂罅充填鑛床 單に硫化鐵鑛のみにて稼行し得るものは稀にして、其の内に金、銀若は銅、亞鉛等を含有する時は此等の鑛物を稼行の傍ら副産物として硫化鐵鑛を産するこゝもあれども餘り重要ならず。(例) 鉛山及び江與味鐘山等

(ロ) 鑛染鑛床 結晶片岩又は第三紀層中に鑛染せるものにて含銅率多き所に會し銅鑛と共に採掘するこゝあり。(例) 吉乃鑛山

(ハ) 單純交代鑛床 (一) 結晶片岩の成層面に並行して層狀を呈し、特に綠泥片岩中に賦存するもの多し。(二) 秩父古生層中部及び上部にて、特に輝綠凝灰岩を母岩とするもの著し。(三) 中生層中に在るものは稀なり。

鑛床は常に母岸の成層面に並行すれども、火成岩其他の原因にて不規則狀態になれるものあり。鑛石は含銅硫化鐵鑛にして一般に銅分少し。(例) 柵原、日立、諏訪、寶、久根、飯盛、高越、白瀧及び槇峰鑛山。

(ニ) 變質交代鑛床 古生層又は中生層の石灰岩稀に粘板岩附近に貫入せる火成岩に因り、接觸鑛物を伴へる鑛床なり。鑛石は概ね磁硫鐵鑛にして、硫黃分少き爲め、銅又は亞鉛を伴はざれば採掘の價值少し。(例) 本山及び長迫鑛山等。

(ホ) 成層鑛床(化學的沈澱) 硫氣洞中に瀦水し、硫黃は泥土と共に沈澱し、其の際鐵分は硫黃に化合し

て硫化鐵鑛となりしものなり。(例) 松尾鑛山

二、産額及び用途別處理高

大正十二年以後昭和四年迄七箇年間に於ける硫化鐵鑛の産額は漸次増進せるものにして其の用途に就ては以前に於ては其の三分の二は銅鑛として處理せられしも遂次其の量を減じ、反之其の内の硫黃を利用して硫酸製造に使用するもの次第に増加し昭和四年に於ては其の過半は此の目的に使用せられあるを見るなり。

(左表参照)

内高費消	大正十二年					昭和元年				
	同十二年	同十三年	同十四年	同十一年	同十三年	同十一年	同十三年	同十一年	同十三年	
生産	八七、四七五	九七、二一八	九三、八六六	一、〇〇五、九〇七	一、三三三、三六九	一、三三六、四九五	一、三三六、四九五	一、三三六、四九五	一、三三六、四九五	
消費	八七、五五五	八八、四四八	九三、四六六	一、〇、四四一	一、一三三、九〇〇	一、一五九、三三〇	一、二八八、六四三	一、二八八、六四三	一、二八八、六四三	
直接銅製鍊に供せられしもの	五七、一九〇	五五、二二三	五八、九〇〇	六三七、一三〇	五九、三三〇	五八、〇五四	五九、三三〇	五九、三三〇	五九、三三〇	
硫酸製造に供せられしもの	六六、四〇〇	六三、二二二	六〇、七〇〇	三六〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	
其他	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
其	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	

備考 其の他中には辨柄綠礫製造用及壁裝飾材料用等を含む。

次に昭和四年各鑛山に於ける硫化鐵鑛の産額及び處理高左の如し。(主として鑛業明細表による)

三	同	二、六八・三	三・二九	四〇〇	二、七九九・六	一	九五九・二	二、二〇三・九	三・六五
神領	同	二七・〇	六・〇	一	六四・七	一	六四・七	一	一
佐々連	愛媛	二、四〇・二	一	一	一八、七三・八	一	一八、七三・八	一	一
伊豫	同	八、一〇三・三	三・〇	三・〇	七、〇七八・六	一	七、〇七八・六	一	一
別子(後津を含む)	同	三三、八四八・七	二、三六二	三九、四四・八	一九七、一五・一	一	二二、三三四・七	一	一
基安	同	四、〇〇・五	四・〇〇	四、〇〇九・五	一	一	一	一	四、〇〇九・五
東の川	同	二、三三八	四・三	三六〇	二、四三・七	一	一	一	二、四三・七
千原	同	二、〇八五・七	三・七五	四〇〇	一、九六・一	一	一	一	一、九六・一
寺野	同	四四〇・七	一・五〇	四〇〇	四〇・五	一	四九・五	一	一
廣田	同	二、四五三・一	二・七六	一	三、三三・六	一	一	一	三、三三・六
菅生	同	八六・〇	一	四八〇	一	一	一	一	一
出石	同	五、七〇〇・〇	三・三〇	一	三、四四八・六	一	一	一	三、四四八・六
梶谷	同	二・二	二・五	一	三・九	一	三・九	一	一
金山	同	二、一〇〇・二	三・三五	一	二、〇〇一・七	一	一、一三・三	一	八八九・四
大峰	同	五、五四〇・三	三・〇九	三八〇	五、〇〇四・四	一	一	一	五、〇〇四・二

九町	同	四八四・九	一	一	四七五・一	一	一	一	四七五・一
平盤	同	二二七・五	四・八	一	三三・一	一	一	一	三三・一
大盛	同	四九五・五	三・〇	一	四九五・五	一	四九五・五	一	七九五・五
折尾	同	五六・〇	四・五	一	七九五・五	一	一	一	一
富岡	高知	一三四・三	四・八二	一	一六・七	一	一	一	一六・七
上關	同	九五	六・八	一	一	一	一	一	一
白瀧	同	三四、三七・九	三・九七	四三〇	三五、二六八・二	一	五、四五・七	二九、八六・五	一
河山	山口	一	三・九七	四〇〇	四一七・九	一	一	一	四一七・九
佐賀關	大分	六三三・二	一・四二	一	七六三・五	一	一	一	一
槇峰	宮崎	三〇、八五・七	四・二	一	三〇、四一・一	一	一	一	一
千軒平	同	四〇八・八	一	三五〇	四〇八・八	一	一	一	四〇八・八
小河内	熊本	三三・六	一三・〇	一	一八・八	一	一	一	一
寶迫	鹿児島	二、三六・三	三・八	一	二、三六〇・六	一	一	一	一
合計		一、三三、〇四五・三	一	一、三三、〇四五・三	四九、三四三・二	六六、四七九・〇	六四、一四七・七	一三、六五・三	

硫酸製造所に賣鐵されしものは脱硫後、銅分多き燒滓は再び銅製鍊に供せられ銅分無きものは一部製鐵並に「セメント」用に供せらる。而して昭和四年度に於ける硫酸會社への販賣高は以上の如く六十四萬千六百六十四吨にして燒滓中再び銅製鍊に供せられしものは約十四萬吨製鐵用に供せられたもの約一萬二千吨内外なり

三、埋藏量

次に今回調査せし各鑛山の埋藏量に就ては之れを發表すべき自由を有せざるを深く遺憾なりとす、而して其の合計は

現存鑛量	二千三百十六萬九千一百七十二噸
推定鑛量	千九百六十六萬五千六百三十九噸
豫想鑛量	千七百八十九萬七千六百十三噸
合計	六千七百三十三萬二千四百二十四噸

而して現存及び推定の兩鑛量に就ては略確實に存在すべきものと考へ得べきを以て其の合計四千二百八十三萬四千八百一十一噸となるべし、而して今鑛床中より鑛石の實收七五%を見做し一箇年百五十萬噸を採掘するものと假定し計算せば此れ等兩種の鑛量にて今後約二十一箇年強の消費量を支ふるに過ぎざるなり、以上は現在稼行中の鑛體のみに就き且つ現存及び推定の兩鑛量のみを計算せしものなれば今後坑道の掘進するに従ひ其の鑛量は増加すべく又探鑛の爲め、新鑛體を發見すべき機會あるべきを以て其の探掘年數を増加すべきは論なきなり。

四、結論

前文に記載せる如く本邦に於ける硫化鐵鑛の需要は年を追ふて増加し殊に硫酸製造用に著しとす、而して

本邦の如き農産國に於ては肥料の需要甚大なるは言を俟たざるなり、今昭和四年に於て動物質、植物質及び鑛物質の肥料産額は實に二億一千萬圓に達せり、而して鑛物質八千七百餘萬圓即ち約四一・三%を占めたり其の内著しきものは過燐酸石灰三千百萬圓、硫酸三千萬圓、石灰窒素千五百萬圓なり、然るに同年に於ける鑛物質肥料の輸入せしものは硫酸四千八百萬圓、硫酸加里六百六十七萬圓に及べり、是等肥料の大部分は何れも之れを製造するに硫酸を要せり、其他化學工業上にも硫酸を要する事は夥しとす、而して硫酸の大部分は常に硫化鐵鑛就中黃鐵鑛より製せらるるものにして、其の原料を硫黃に仰げるは僅かに一部分に過ぎざるなり、故に硫化鐵鑛の需要は年々増加し現今に於ては一ヶ年約百二十二萬噸を要すべきも若し夫れ輸入肥料を防止せんことを欲せば更に大いに其の需要を増加すべきなりとす、現時硫化鐵鑛を産せる諸鑛山は既に各鑛山の編に記述せし如く其の數實に五十餘箇山、一ヶ年の産額百二十二萬噸に及べり、是等の鑛石は探掘すれば夫れだけ減少すべきものにして、之れを現存及び推定の兩鑛量四千二百八十三萬噸より打算するも今後約二十一ヶ年強の消費量を支辨するに過ぎざるなり、故に今後各山に於ては充分探鑛を爲さざれば其の需要を満足する能はざるのみならず、遂には廢山の餘儀なきに至るべきは明かなりとす、而して現在稼行中の諸鑛山は皆往年の發見にして、鑛山としては何れも老年に達せるものなれば今後大なる發展は望み難かるべく、内には遠からずして衰頽するもの多數ありとす、獨り岡山縣柵原鑛山に於ては逐次巨大なる鑛塊を發見すれども其の他諸鑛山を一瞥すれば聊か心寂しき感無きにあらざるなり。

英國鐵鋼業保護と斯業改造問題

英國鐵鋼業の生産力が現在の市場に比し過大であると同時に、其生産組織が歐米主要鐵鋼生産國の有する新式工場に比し舊式のものであることは既に周知の事實である。尤も箇々の工場に就て見れば英國の工場中にも獨、白、佛等大陸諸國の工場に比べて能率の點に於て劣る所なきものはあるのだが、一般に見る時は英國の生産形態は企業の單位が小規模で數に於て多きに過ぎて居る上に、産業の經營者には英國獨特の個人主義的の傳統が深く染込んで居り、近代的生产組織に必要な生産の集中化販賣の方に在ては市場の割當乃至協定云ふが如きこの實現を困難ならしめて居るのである。企業の單位の數が多いことは即ち小規模生産者が多く、競争の激化を招くことを意味して居て、そして經營費の節減として必要な燃料と副産物（コークス、瓦斯等）の經濟的處置を謂ふ様なことが出來ず、今日の様な不況時代に際しては何の會社一として全能力を擧げて生産に従事して居る様なものはないと云ふ様な實狀であるが、殊に最近に資本を募つて工場の改造を行ひ、比較的の新式設備を有する所では作業短縮を餘儀なくせられる結果として、生産品の原價は甚敷割高にならざるを得ない譯で、折角生産組織を改めた工場でも他に群小の工場が多數あつて、安値競争をする現狀では大陸諸國の大規模生産組織の下にある工場は競争が出來ない事になる。英國各産業組織に就て徹底的檢討を行つたバルフォア委員會の報告に依るも、一九二五年平均熔鑪能力は英國約四萬千噸、

米國十三萬八千噸、獨逸九萬六千噸であるが、其後獨逸は外資を輸入し新式大規模の生産組織に改造を行つたから、現在は右に示すよりも生産能力を増大して居ることは勿論である、鋼爐に就ては英國の工場が必ずしも劣つて居るのではないと云はれておるが、夫れでも六三二基の平爐に就て見るに、五四〇基は六十五噸の能力を有つもので、百噸以上の能力のものは僅に三十二基に過ぎない狀態であること云はれ、米國や獨逸の工場に比するに甚敷い遜色が認められる、又石炭の燃焼方法に科學的改良を加へて、石炭瓦斯其他の副産物を鐵鋼業に利用して、生産費節減の途を開くか如きことは英國鐵鋼業に残されて居る事業であらう、そうして國內の鐵鋼業を炭坑業と密接に連結せしめ冗費節約の方法を講ずること、例へばスコットランド、ミルドスボロ、シエフキールト、サウスウエールズ、ランカシア等の五地方に炭坑業と鐵鋼業の經濟的統制と事業集中を行ふに於ては、現在よりも低廉且有利に英國内産業の需要する鐵鋼材が供給出來た上に、外國市場にも其の地歩を維持することを得るであらうこの主張もあるのであるが、從來箇々の會社に部分的に緩慢なる改造乃至他會社の合同若は事業協定が行はれた以外には、斯業全體より見て計畫的に顯著なる改造が行はれた例は未だ殆んど無く、輸出は不振なると共に國內には印度銑鐵を初め大陸鐵鋼品の輸入増加し、國內生産業は内外より壓迫せらるゝ狀態が最近迄續いたのである。

鐵鋼業に對する保護關稅の必要は數年來繰返し、當業者に依つて叫ばれて來たのであつたが、他の産業に取つて重要な材料を供給するの地位にある鐵鋼業を當業者の言ふが如くに保護し、其結果が國內相場の騰貴

こか、或は格安の外國品が手に入らなくなるこか云ふこになるこ、國內一般製造工業に及ぼす影響が多大であつて、其の方面の反對も強硬であり、政府も之を慎重に考慮せざるを得ない事情にあつた、夫故昨年の過當輸入税法の下に在つても鉄鐵を初め半製造品たる鐵鋼類には課税を見なかつた次第である。而し乍ら一九三二年輸入税法が成立するこ同時に、右の品目にも一般従價一割税が課せらるここになつたが、従價一割税位では到底國內産業の保護にはならないこ云ふこで、當業者側の熱心な運動は繼續し、關稅諮問委員も鐵鋼の輸出が減ずる一方に於て、外國製品が安値を以て盛んに輸入せられ、國內には失業者の激増も認められる事態になつたので、焦眉の急に迫つたものこして左の鐵鋼品に付三箇月の期限を附し二三%の附加税(一般従價一割税併課されるが故に三三%となる)賦課を提議するに至れり、政府は其の答申に従ひ一九三二年四月十九日附發令を以て之を實施するここになつた。

(1) スピードグライセン、滿俺鐵

(2) 鉄鐵を除く鐵鋼品中、鑄塊、鑄片(何れも木炭鉄より造りたるものを除く) 壓延鐵鋼材類(鉄、條竿類)、錫鋸竿、各種形物、鑄物類(百斤以上のもの)、蹄鐵

右の各品目に對し關稅諮問委員が附加税提議を爲すに當つて、三箇月の期限を附した事情は、同委員が大藏當局に提出した答申中に明に示されてある。即ち同委員は英國国内市场に外國輸入品の激烈なる競争が行はれつゝある事實を認め、斯様に外國生産過剩品が安値で提供せらるここは、鐵鋼を材料に使用する英國内製

造業に取つて一時的には利益であらうけれども、其の状態を放任して置いたが爲に國內鐵鋼業が壓倒されて仕舞たり、或は事業の範圍が永久的に縮少して仕舞ふ様なここになるこ、國の大局より見て由々敷い事態であるこ爲し、鐵鋼業に最高の能率を發揮させるここは、英國製造業に取つて必要な事である許りか、國民的生活確保安全こ云ふ見地よりすれば最重大な問題であるから、斯業に至急適當なる保護を加ふべきものなりこする主張は認めざるを得ないが既に數次の調査を斯業に就て行つて見るこ餘程綿密な徹底的調査をした上でないこ、永久的保護施設の大綱だに示すここが出来ない程、他の産業この關係が複雑を極めて居るこを發見したのだから、若し斯様な複雑な調査を行ふ間延引するここになるこ、鐵鋼業丈に特に不利な待遇を與へる譯であるから、取り敢へず暫定的に最近甚しい安値で輸入されて居る外國競争品の輸入を阻止して置くを必要と認めるこ云ふ理由で右の如く三箇月の期限を附して附加税設定を勸設したのであつた。

政府が右の勸奨に基づいて直に附加税賦課の發令を爲したるこ前述の如くであるが、鉄鐵丈は除外せられて居つたので、當業者の失望を招いた所多大であつた、關稅諮問委員に運動を繼續した結果、同委員も市場の狀態に照し鉄鐵にも(木炭鉄を除く)曩に發令の附加税二三%を適用するの要ある旨報告したので、政府は六月十四日より右を實施する旨六月八日附を以て發令するここになつた。

關稅諮問委員の答申に據れば、英國鉄鐵の生産は大戦前四年間の平均九、三四〇、〇〇〇噸であつたものが、一九二四年には七、一六〇、〇〇〇噸に一九三〇年には六、〇六〇、〇〇〇噸に減少した。製鋼材料に

スクラップアイアンが多く用られる様になつたことも右鉄消費減少の一因ではあつたが、英國で消費せられる鉄の大部分は英國内で生産されるものを以て供給し得る状態であつた、一九三一年には鉄の生産更に著減して三、七〇〇、〇〇〇噸に低下したが、英國需要を英國品で大體に於て満す云ふ事情には變化なく、本年四月關稅諮問委員が他の製鋼品に附加稅設定を提唱した際も、鉄は加ふる要なしと認められたのである。處が其の後の數週間の市場は如何に云ふに、大陸製品の唱値は著しく低落し、英國内鉄製造業は一大脅威を感じるに至つた、尤も右の様な安値が現出してから日が浅い故、輸入統計に顯著なる變化を示す程に大陸品の輸入が殖えた譯ではないけれども、國內市場の滞荷が消化された後で此様な安値競争が起るであらうなれば、國內には休爐續出を氣遣はれる實状であるから、差當り曩に他の鐵鋼品に設定した附加稅を鉄にも適用するを妥當と認めたと云ふのである。

而し乍ら關稅諮問委員は鐵鋼材料の國內相場が將來に右の如き保護の爲に割高になつて、鐵鋼業に依存する他の産業を不利の地位に陥れる危険を慮れて居るので、鐵鋼業界の有力代表者を招いて、將來の對策として鐵鋼業に合理的改造を行ひ、生産原價の低下を計るの急務を力説したのである。其趣旨は鐵鋼業に取り其生産品が賣れることが繁榮の基礎を爲す條件を爲すは云ふ迄もないが、生産品を賣れる様にするには鐵鋼を材料として使用する他の製造及建築業の繁榮が前提となる、處が英國の製造業は主に輸出に依存して居るのであるから、材料たる鐵鋼は外國品に比し不當に高價ならず、品質も良好でなければならぬ、從て内國の

鐵鋼業に保護を加ふるに同時に斯業を國內産業の要求に應じ得る様に改造することが急務である、英國には英國の特長があるから、必ずしも大陸諸國に見るが如き改造をせねばならぬものでもなく、又一足飛びに大改造が出来る譯のものでもないが、兎に角改造を目標に進まねばならない、夫には國內市場を國內生産業の爲に確保するを前提とするに云ふにあつて、諮問委員と懇談した鐵鋼業代表者達も異論のある筈はなく、直に左の人々が委員に擧げられナショナル、コムミチーが成立することに委員長にはドーマン、ロングのチャールズ、ミッチェルが任命された。右の委員が如何なる改造案を畫策するやは未だ豫測の限りではないけれども、既に暫定的には云へ當業者の渴望した所の保護關稅も實現を見たのであるし、又過去の經驗に徴してもドーマン、ロング、ボルドウケン、ランカシア鐵鋼會社等の合同が行はれて改造への一步が踏出されて居るし、近くは支那市場への發展を企圖してドーマン、ロング、アンド、アッシエーツ、チャイナが出現して該市場に於ける競争の排除に、冗費の節減を行ふの趣旨の販賣組織の改造を行つて居り Steward and Lloyds, Ltd. United Steel Companies の二大會社も生産、販賣研究の三方面に合理的事業協定を結んで、其關係會社内外二十數社を含んだ一大統制を實現する等、斯業改造の機運は既に熟して居る様にも見えるから、經濟不況の打開に云ふ共同目票の下に改造問題は或は案外に急速な進展を示すかも知れぬ、ナショナル、コムミチーの顔振は左の如である。

Mr. Charles Mitchell, Chairman (Dorman Long and Co).

- Mr. E. J. George (Managing Director, Consett Iron Co.)
 Mr. A. N. Mcquistan (General Manager, Cargo Fleet and South Durham Iron Co.)
 Mr. John Craig (Chairman, Colvilles)
 Mr. A. K. Meesoh, Chairman, Wm. Baird and Co.)
 Mr. Walter Gray (Managing Director, Steel of Company of Scotland)
 Mr. Andrew Gray (General Manager, Lanarkshire Steel Company.)
 Sir John Beale (Chairman, Guest Keen and Nettlefolds.)
 Sir W. J. Firth (Chairman, Richard Thomas and Co.)
 Mr. Frank Reeds (Chairman, South Wales Siemens Steel Association.)
 Capt. R. S. Hilton (Manager Director, United Steel Co.)
 Mr. F. Clements (General Manager, Park Gate Iron and Steel Co.)
 Mr. H. A. Davis (General Manager, Patent Shaft and Axletree Co.)
 Mr. H. Summers (Chairman, John Summers and Sons.)
 Mr. A. C. Macdiarmid (Chairman, Stewarts and Lloyds.)
 Mr. E. J. Fox (Manager Director, Stanton Ironworks Co.)
 Mr. G. H. Johnson (Managing Director, Keting Iron and Coal Co.)

- Mr. D. N. Turner (Managing Director, Staveley Iron Co.)
 Mr. W. R. Lysaght (Chairman, J. Lysaght.)
 Major A. Hibbert (General Manager, Millom and Askan Hematite Iron Co.)
 Mr. J. Davison (General Manager, Barrow Hematite Steel Co.)
 Mr. A. J. Grant (President, National Federation of Iron and Steel Manufacturers, Managing Director, Thos. Firth and John Brown.)
 Mr. J. E. James (Chairman, Lancashire Steel Corporation.)
 (昭和七年六月廿六日附 在ロンドン松山商務參事官報告)

雜 報 及 統 計

合衆國鋼鑄物工業の低作業と對策

(作業率は能力の一割五分)

Iron Age, may 26, 1932.

去る五月十八日紐育ルーズヴェルトホテルに於て開催された亞米利加鋼鑄物協會春期總會の席上、同會長 Arthur Simonsen 氏は不戰媾和論者的態度 (defeatist attitude) 放棄を力説するに同時に斯業現在の苦境緩和

策として密接なる協力を唱道する所あつた、而して各生産地方に於ける注文の共同計算が有效なる匡救策として提案されたのであつた、鞏固なる價格組織、正確なる生産費の認識、トラスト禁止法の新解釋、及び各自の工業を適當に取締るべき「トレード、オルガナイゼーション」に對する法的權能等が斯業を安定に導く必須要件として幹事長のグラビール、ピ、ロージャー氏から呈示された。ウイスコンシン州製造業者組合の「dust, fumes, vapors, and gases」委員クラレンス、バ、バートレット氏は「The Cost of Dust in the Steel Foundry」を題する論文を提出した。出席會員の報告に依れば「鋼鑄物工業の現在作業率は能力の約一五%であつて、茲暫らくは好轉の見込が立たない、此の悲觀的展望は主として鐵道の購入量が茲數ヶ月は相當の量に恐らく達しないであらう」と云ふことが最近會員の調査に依つて明かになつたからである。

獨逸鐵鑛石の供給資源に就て

Iron & Coal Trades Review June, 3, 1932.

獨逸は一九一八年アルサスローレンヌの喪失に依つて其の國內鐵鑛石資源の殆んぎ全部を剝奪された形になつた。獨逸に残された鐵山は、ジーゲルランド地方ミラーン及びディル (Lahn and Dill) 地方並に上部ヘッサー (Upper Hesse) の鐵山のみである然しなから右地方の鑛石は貧乏なるが爲め現在に於ける獨逸は外國鑛石に殆んぎ全部を依頼せざるを得ない有様であつて、最後の平年たる一九二九年の輸入高は合計一六、九五二、八二三噸に達した。

事情斯の如きものあるか爲め、ライン、ウエストフアリアの製鐵業者は信頼し得べき鑛石の供給資源を確保するの目的を以て瑞典の探鑛業者と契約を締結せるが本協約の下に於ては一九四二年迄毎年數百萬噸の鑛石が引渡さることになつて居る。一九二九年と一九三〇年とに於て獨逸は瑞典鑛石輸出高の内七割二分を七割四分を輸入した。

次に獨逸に對する重要な鑛石の供給者は次表に示す如く佛蘭西である一九三一年及び三〇年に於ける資源別對獨逸鑛石供給高次の如し (單位噸)

	一九三一年	一九三〇年
佛 蘭 西	一、九二〇、三三九	二、七七九、八六八
瑞 典	二、八〇二、八二二	六、七二五、四三二
西 班 牙	八〇三、五九〇	一、八二四、八八〇
ア ルゼ リア	四〇三、三五八	六〇一、四〇三
チ ュニ シア	一一八、三六九	一七八、九九八
露 西 亞	一〇六、六八三	三九、〇三一
合 計 (掲げざる供給國を含む)	七、〇七〇、八四二	一三、八八九、八六七

一九一三年に於て獨逸は戰前の佛蘭西領域内に抱含せる鐵山と戰爭の結果佛蘭西に委譲せる地域内の鐵山とから約五、〇〇〇、〇〇〇噸の鑛石を取つたものであつたが一九二九年に於て右鐵山から取つた數量は

三、三五二、七三七噸で即ち約三五%を減じたのである。

産業界不振の結果として最近三ヶ年に於ける獨逸の製鋼高は激減を示し即ち一九二九年の一六、二四六、〇〇〇噸から一九三一年の八、三〇〇、〇〇〇噸に低落した。契約の條文に依り獨逸の製鐵業者は多量の瑞典鑛石を買取らねばならなかつた而して獨逸の鑛石輸入合計に對する瑞典鑛石輸入數量の百分比は一九二九年の四三%から一九三〇年には四九%に増加したのであつた。鶴首期待せる國際鐵鋼市場の好轉は一九三一年に於ても遂に其の姿を現はさず、爲めに獨逸は其の購入鑛石の減額に關し瑞典の採鑛業者と懇談せざるを得ない事態に迫られたのであつた、協商は長びいたが遂に瑞典側は引渡屯數の減額に同意するに至つた。其の結果一九三一年九月から引渡高は著しく減じ、昨年十一月の分は全年の月平均二〇〇、〇〇〇噸に對し約三一、〇〇〇噸と云ふ最低數字に達した。

瑞典鑛石の對獨輸出高は一九三〇年の四九%に比し一九三一年は獨逸の鑛石輸入高合計の僅に三九%に過ぎなかつたことは前述の通りである。然しながら此の減額にも拘らず、獨逸の工場は昨年末に於て約一千萬噸に達する鑛石のストックを有して居つた。

一方佛蘭西からの鑛石購入高は増加し一九二九年に於ては其の全輸入高の一九%であつたが一九三〇年には二〇%、一九三一年には二七%に増加した、理由は言ふまでもなく、高價な瑞典鑛石を使用するより廉價な佛蘭西鑛石を使用せざるを得ない、獨逸製鐵業者の財政事情が然らしめたものである。

兜の緒を締めて完全なる統制へ

保護關稅景氣に處する英國三大製鋼

英國に於ける三大製鋼會社スチュワーツ・ロイツ・合同製鋼の三社は今後打つて一丸となり販賣、調査研究、生産額の増加方法、價格、工場の不統一などをすべて統制して時局に善處するこゝになつた旨最近發表した發表に際し保護關稅賦課の態度につき又無益な競争をさけるべき意味の左の如き聲明書を出した

「今回政府の設けた保護關稅により工業界は非常な好影響を受けるこゝになつた、従つて我々鐵鋼業者及び其の關係業者は之を機會に今後に對する方針を決定する必要がある、即ち各社無益の競争を避け既に充分なる供給をなし得る地方には工場を設けるこゝなく斯業發達のために大いに努力すべきである」
尙スチュアート社及びロイツ社の公稱資本金は七百三十七萬二千七百七十五磅、合同製鋼の資本は六百六十五萬磅である、尙今の所では各社間の財政的問題も起さず、役員の変更も行はれるこゝはないものが見られてゐる。(日刊工業七年七月一日)

ルクセンブルクの鐵鑛石(一九三一年)

Iron & Coal Trades Review June 3, 1932.

摘要

一、鑛石産出高

一九三一年
一九三〇年
一九二九年

二、地方別產出高

Rumelange-Dudelange 地方
Petange-Differdange 地方
Esch 地方

四、七六四、九二六噸
六、六四九、三七二"
七、五七一、二〇六"

三、種類別生產高

硅質鑛石
石灰質鑛石
含鐵石灰石
(Ferruginous Limestone)

一、一三九、八八八噸
二、六三七、九五七"
九八七、〇八一"

二、九四八、八〇九噸
一、七一八、八四三"
九七、二七四"

四、平均鐵分

硅質鑛石
石灰質鑛石

三二・三四%
二七・二九%

五、價格

平均屯當
一三・〇七法 (一九三〇年三・五六法)

ミネツト
一三・三八法

石灰質鑛石
八・一八法

六、鑛石の消費高

國產鑛石
外國鑛石 (ローレヌ)

三、三〇二、〇七六噸
三、五〇〇、〇〇〇"

合計
約六、八〇〇、〇〇〇" (一九三〇年九、四〇〇、〇〇〇)

七、探鑛費

坑内作業の場合
露天掘作業の場合

屯當り 一八法―二二法
八法―一五法

八、鑛石の輸出入

一九三一年
一九三〇年

輸 入 (全部佛蘭西から)
三、六九四、三三八噸
五、〇三五、三五一噸

輸 出 (獨、佛、白及ザールへ)
一、三二五、九九〇"
一、八一四、四〇三"

九、探鑛夫數

四、四三五人 (内二、〇七九人は外國人)
一〇、災害事故發生數

二、五四五件 (坑内一、九一七件、露天掘六二八件)

一、山元ストック

一九三一年末 一、二二九、〇七九噸 (前年九九五、二七〇噸)

昨年中ルクセンブルク大公國鐵山の鑛石產出高は一九二九年の七、五七一、二〇六噸、一九三〇年の六、六四九、三七二噸に對し僅に四、七六四、九二六噸に過ぎなかつた、この減少は一般的産業の不振、鐵分の比較的高いローレヌ鑛石の壓迫に起因するものであるが、鎔鑛爐に於ける屑使用の増加も亦幾分鑛石消費高減少の原因をなすものであつた。地方別の鑛石產高に就いて見るに Rummelange - Dudelange basin の產出高は一、一三九、八八八噸 Pétange - Differdange basin は二、六三七、九五七噸、及び Esch 地方の產出高は九八七、〇八一噸に達した、Rummelange 鐵山及び石灰質鑛石を生產する Esch 地方產高の減少率は、硅質鑛石のみを生產する、Differdange - Pétange 地方の減少率より大であつた、大公國の產出高合計中、二、九四八、八〇九噸は、硅質鑛石一、七二八、八四三噸は石灰質及び九七、二七四噸は含鐵石灰石であつた。昨年生產高の平均鐵分は一九三〇年のものに比し増加を示したがこは食鑛を生產する鐵山の二三が閉鎖されたの、比較的富鑛の硅質鑛石を生產する鐵山の比率が増加した爲めであるが又昨年は鑛石の掘り方に一層の注意が向けられたからでもあつた、平均鐵分は硅質鑛石の場合に於て三二・三四%石灰石鑛石の場合に於て二七・二九%であつた。

昨年產出高の價格は合計一億一千萬法に達し屯當りの平均價格は二三・〇七法 (一九三〇年二三・五六法)

ミネット鑛石の場合に於て屯二三・三八法、石灰質鑛石の場合に於て八・一八法であつた。

一般的産業の不振に之れに伴ふ銑鐵生產高の減少に依り、國產鑛石の消費高は二四・七%を、輸入鑛石の消費高は二六・六%を減じた、國產鑛石の消費高は合計三、三〇二、〇七六噸で全國產出高の六九% (一九三〇年六六%) であつた、一方外國鑛石 (ローレヌ) の消費高は合計約三百五十萬噸で、斯の如く國內工場の鑛石消費高は一九三〇年の九百四十萬噸から六百八十萬噸に減じたのであつた。

生産費は年末、年始に依つて大差があつたが、坑内作業に於て屯當り一八法乃至二二法露天掘作業に於て八法乃至一五法であつた。

石灰質鑛石は、其の低度鑛なるの運送費の高價又ローレヌ鑛石の競争に依つて殆んど買手かなかつた、硅質鑛石の場合に於ける販賣高は平時屯數より著しく減じたが又現行契約は其の完了に際し更新せらるる所なかつた、此の種鑛石の價格は大いに低落し即ち鐵分三四・三六%の鑛石一屯當りの價格は僅に二三法又は二四法に過ぎなかつた、含鐵石灰石の販賣高は僅かで、其の取引價格は屯五法乃至七法であつた。

鑛石の輸出入

昨年の輸入高は (全部佛蘭西から) 三、六九四、三三八噸で前年に比し一、三四一、〇一三噸を減じた、又輸出高は一九三〇年の一、八一四、四〇三噸から一、三一五、五九〇噸に減じた、其の仕向地別次の如し。

獨逸	一九三一年	一九三〇年
ザール	三、七九五	一一五、五三三
佛蘭西	二二一、七五九	二九三、八八五
白耳義	一一三、八九四	一六二、五〇五
	九七六、一四二	一、二四二、四八〇

探鑛夫の備役数は四、四三五人内二、〇七九人は外國人であつた、災害事故数は二、五四五件内一、九二七件は坑内作業に於て、六二八件は露天掘作業に於て起つたものである。

一九三一年末山元ストックは合計一、二二九、〇七九噸に達した（前年九九五、二七〇噸）

歐洲鐵鋼市場近況

アイアン、エーヂ七月十四日所載

大陸鋼市場は白耳義炭業罷業の爲め混亂状態を呈し白耳義シャルロア地方の工場は殆んど全部閉鎖す
一名義上の價格

倫敦七月十一日發電 當地市場閑散、休日期に入る、賠償に關するローザンヌ協定の好影響はあるも活氣の再來は秋以前には期待し難し。

大陸市場は白耳義炭坑夫のストライキに依つて攪亂さる、即ち坑夫のストライキは製鋼工場にも關聯しシャルロア地方の工場は殆んど全部閉鎖され同時に白耳義の鋼價は名義上の價格に過ぎない。

ウエールスの鉄力板事情は需要の増加ミプールの減産計畫ミに依り強氣を呈し、佛蘭西、濠洲等から注文續々來る。露西亞の英國鋼材最近注文高は厚板、薄板及びストリップ等七萬噸に達し内四萬噸以上は十八ヶ月間の信用賣買即掛賣で取引されたが尙今後高度鋼の注文ある見込である、パーミングハムの電氣爐製造業者は Chahabinsk Tractor 工場ミ電氣爐三十七基の注文契約を締結した。

英國關稅諮問委員會に於ては、マシントール其他機械の關稅を無稅にせんミする申請書を受理しつつあり大陸線材カルテル及大陸ワイヤーシンヂケートは普通價格政策を樹立する目的で七月末オステンドに於て會議開催の豫定である。奧大利ワイヤーメーカーカース、シンヂケートは此の程解散され同時に價格は約二割五分低落した。

波蘭の Snawickich チューブ製造所に於ては其の製鋼工場ミ壓延工場ミを閉鎖し Huta Bankowa 會社に於ては、鋼板ミチューブ製造を中止した。燭逸の Friedrich Alfred Hütte Rheinansen は七月十三日には全作業を復活する筈であるか一方 Gutehoffnungshütte に於ては既に元の作業程度を回復した。

露西亞には目下操業鎔鑪百基を數へて居るが、マグニトゴルスク製鐵所の第三、第四鎔鑪は殆んど完成に近つきつゝある。

英國諸港渡 英國鋼材 f. o. b. 相場（七月十一日相場）

British Prices, f. o. d. United Kingdom Ports

	Per Gross Ton
Ferromanganese, export	£ 9 0s
Billets, open—hearth	4 17 6d to £ 5 7s. 6d
Black sheets, Japanese specifications	9 12 6
Tin plate, per base box	15 3 to 15 6
Steel bars, open—hearth	7 17 1/2 to 8 7 1/2
Beams, open—hearth	7 7 1/2 to 7 17 1/2
Channels, open—hearth	7 12 1/2 to 8 2 1/2
Angles, open—hearth	7 7 1/2 to 7 17 1/2
Black sheets, No. 24 gage	8 0 to 8 10
Galvanized sheets, No. 24 gage	9 5 to 9 7 6
大陸諸港渡 大陸 f. o. b. 相場	
Continental Prices f. o. b. Continental Ports	
Per Metric Ton, Gold £ at \$4. 86	
Billets, Thomas	£ 1 18s

Wire rods, No. 5 B. W. G.	4 10
Black sheets, No. 31 gage, Japanese	11 5
Steel bars, merchant	2 2
Beams, Thomas	2 1 6d
Angles, Thomas, 4-in. and larger.	2 1
Angles, small	2 3
Hoops and strip steel over 6-in. base	3 5
Wire, plain, No. 8	5 7 1/2
Wire, barbed, 4-pt., No. 10 B. W. G.	8 15

本年一、二、三、四月の英國壓延鋼材生産高

(單位千噸)

品 目	一九三二年平均	一九三三年一月	全上二月	全上三年三月	全上四月
フオーディング	一一・九	一〇・四	九・二	九・六	九・四
厚板(ボイラ用)	二・八	五・四	二・五	三・九	三・〇
厚板 3/8吋以上	四四・五	四五・五	四二・五	三九・四	三八・〇

品目	本年一、二、三、四、五月の獨逸壓延鋼材生産高 (單位噸)				
	一月	二月	三月	四月	五月
薄板%吋未満	三二・八	三三・六	三二・一	三一・二	三七・〇
鋁力板	五九・八	七五・五	七三・〇	八〇・七	六七・七
亞鉛引薄板	三七・二	三二・七	三〇・六	三六・三	三〇・〇
軌條五〇封度以上	三二・一	一八・二	三二・三	三五・五	三〇・一
軌條五〇封度未満	三・一	二・九	三・五	三・二	二・八
電車軌條	二・〇	二・一	一・六	一・一	三・九
枕木及繼目板	六・七	二・三	五・一	四・一	一・九
形物(丸角,平其他)	一一六・二	一〇九・四	一一〇・三	一一〇・八	一〇四・三
線材	一八・八	二五・一	二四・四	二七・二	二八・七
フープ及ストリップ	一九・五	二一・八	二二・一	二〇・三	二〇・九
發條鋼	四・四	四・二	四・二	三・九	五・〇

(以上 アイアン、エンド、コイル、トレッド、レビウー一九三二年五月十三日、六月十日、七月十日所載)
 本年一、二、三、四、五月の獨逸壓延鋼材生産高 (單位噸)

棒鋼及小形	七三,〇〇六	七四,二二六	六八,五三三	一〇七,三三九	一五三,七一一
フ	一五,五六六	一六,五三三	一六,〇四九	一八,七三三	一八,五三三
線材	四三,一七七	四三,二四六	五五,三三三	五三,六六六	五三,九六八
厚板%吋以上	一〇,七三三	一四,八八八	一三,七〇六	三三,七一〇	六五,五四一
薄板%吋未満	五,〇三三	五,三八八	五,四三三	三三,五四七	一九,四六〇
薄板三耗未滿	二二,〇九〇	二七,六九〇	二七,五九九	三三,四九九	三五,四四四
鋁力板	九,〇四六	九,一〇五	九,一〇一	一一,三六〇	一一,五七七
チユー	一五,三九九	一六,一七三	一八,三三三	一九,八八一	二六,一三三
鐵道車輛材料	六,六五七	五,八八八	六,七七一	八,七六八	七,〇三三
フオーヂング	七,七九五	八,〇六八	七,七三三	八,八七六	八,四九九
其他の製品	九,四五六	七,四七四	六,四四六	七,四五五	三,四八五
合計	二九七,七一一	三三八,九七九	三三五,六七〇	四〇〇,二五九	四八八,三三〇
販賣用半製品	二八,四二七	三五,〇六二	二七,八七一	二八,一三六	二二,六五三

一九三一年の世界石炭産額

Iron & Coal Trades Review, May 6, 1932

合衆國鑛山局編纂の豫備數字に依れば、一九三一年に於ける各種石炭の世界産額は概算一、二五六、〇〇〇

〇、〇〇〇佛屯に達す、内一七九、〇〇〇、〇〇〇噸即ち合計の約一四パーセントは褐炭であつて一、〇七七、〇〇〇、〇〇〇噸は瀝青炭及び無煙炭である。

次表は一九三一年及び一九三〇年に於ける世界主要國の石炭産額を示す(要修正) (單位噸)

國別	一九三〇年	一九三一年
北米	一九三〇年	一九三一年
加奈陀	一〇、三六七、四三二	八、四五六、九〇〇
"	三、一三二、六〇八	二、六二一、三〇九
合衆國	六二、九四四、五三六	五四、〇〇五、〇〇〇
"	四二四、一三〇、五〇八	三四三、〇一四、〇〇〇
其他の國	一、二九九、〇五九	※
南米	二、一五五、八二七	※
歐洲	二七、四一四、七三〇	二七、〇三五、二七〇
白耳義	一四、四三五、〇〇二	一三、二四三、三六七
ロバールキヤ	一九、一九三、六六九	一七、〇六〇、九〇七
佛國	五三、八八四、〇三五	五〇、〇三七、〇〇〇

獨逸	一褐炭	一、一四二、七三三	一、〇二六、〇〇〇
"	一褐炭	一四二、六九七、七六〇	一一八、六二四、二三二
ザール地方	一褐炭	一四五、九二三、八一八	一三三、二二一、九七一
ハンガリー	一褐炭	一三、二三五、七七一	一一、三六七、〇一一
"	一褐炭	八一、五四八	八〇、〇〇〇
和蘭	一褐炭	六、一六七、四八四	五、八二〇、〇〇〇
"	一褐炭	一一、二一一、〇八六	一一、九〇〇、〇〇〇
波蘭	一褐炭	一四四、一五〇	※
"	一褐炭	三七、五〇五、六四九	三八、二六六、〇〇〇
露西亞	一褐炭	五四、九六二	三九、〇〇〇
"	一褐炭	三九、九五二、〇〇〇	四九、七〇〇、〇〇〇
西班牙	一褐炭	七、一九八、八〇七	七、三〇〇、〇〇〇
"	一褐炭	三八八、〇三二	三五四、〇〇〇
英國	一褐炭	二四七、七九六、一二七	二三三、三三一、〇〇〇
北アイルランド	褐炭	一	※

其他國	14,370,872	*
亞細亞		
支那		
英領印度	24,185,087	*
日本(台灣及樺太を含む)	33,400,000	■
一石炭	118,624	◎
其他國	13,040,546	*
亞弗利加		
南ローデシヤ	938,736	*
南阿聯邦	11,333,501	*
其他國	510,418	*
大洋洲		
濠洲		
ニウサウスウエールズ	7,206,899	*
其他の諸州	1,403,873	*
新西蘭一石炭		

一	1,179,019	*
一	9,670	*
總計	1,413,000,000	
總計	1,156,000,000	

註 ※印は總計中に見積る

▲印は即ちザール地方の分は佛國管理下の炭田

◎印は概算

■印は十ヶ月間の數字を基礎として見積れるもの

●印は九月卅日に終る年度

△印は十一ヶ月間の數字を基礎として見積れるもの

一九三一年中加奈陀の銑鐵統計

アイアン、エンド、コイル、トレード、レビウ一九三二年六月三日

一九三一年中に於ける加奈陀の銑鐵生産高は合計四二〇、〇三八英屯(一九三〇年七四七、一七八屯)に達した、品種別に示せば次の如し

鹽基性鐵	311,850英屯
鑄物銑	80,892
可鍛銑	17,296

一九三一年中銑鐵の輸出入高次の如し

一九三一年	輸 出	輸 入
	二、七八七英屯	七、九二二英屯
		五九三英屯
		一三、六四三英屯

一九三一年中鎔鑪原料消費

輸 入 鐵 鑄 石	七四五、九五二英屯
工場シンダー	五六、五二五〃
屑	一六、二七二〃
石 灰 石	二二四、七八六短屯
骸 炭	四四八、八四五〃

一九三二年末現在生産業者手持銑鐵ストック合計一二八、二二二英屯

一九三二年第一四半期中英領印度の銑鐵輸出高

アイアン、エンド、コール、トレードレビウー一九三二年六月三日

本年最初三ヶ月間中の英領印度の銑鐵輸出高は一〇四、八七七屯に達した因に一九三一年同期の輸出高は七三、〇一三屯、一九三〇年同期は一三六、五〇七屯であつた、本年輸出高の仕向地別屯數次の如し

英 本 國	二七、五八一屯
獨 逸	一、四〇二〃

日 本	五七、二七一〃
合 衆 國	一三、二五八〃
其 他	五、三六五〃

本年四月中獨逸の操業高爐並品種別銑鋼生産高

Iron & Coal Trades Review, May 27, 1932

四月末現在獨逸の操業高爐數は四〇基を數へ前月に比し一基を減じ一月末現在數より八基を減じた、四月の銑鐵生産高は三三五、七九九噸(前年四月五二九、一九一噸)を算し其の内譯次の如し

ヘマタイト銑	一四、八二七噸
鑄 物 銑	二〇、二〇三〃
鹽 基 性 鐵	三三三、四〇六〃
合金鐵スビーゲル等	六六、三一九〃
其他の銑鐵	一一、〇四四〃

(因に直接鑄物、ベセマー銑を産せず)

四月の鋼塊及び鑄物生産高は五二〇、五二二噸(前年四月七四一、一一九噸)を算し其の内譯次の如し

鹽 基 性 轉 爐 鋼	一五七、〇八三噸
酸 性 〃	三〃

鑄物の内譯次の如し

鹽基性平爐鋼	三三七、三〇〇
酸性	五、〇三三
坩堝及電氣鋼	五、九八八
其他	一、七二三
鹽基性	八、四九五
酸性	三、六九四
坩堝及電氣鋼	一、一九三

本年四月中合衆國操業高爐並銑鋼生產高

合衆國四月の骸炭銑生產高は合計八五二、八九七英屯（前月九六七、二三五）を算し五月一日現在の操業高爐數は六〇基で前月に同じ。

亞米利加鐵鋼協會の報ずる四月中の鋼塊生產高は一日平均四七、六八五噸で一九三二年七月（一日平均三六、七〇九）以來の最低數字である、四月の鋼塊生產月額は約一、二三九、八一屯（前月一、四一〇、八三〇屯）に達す

本年四月中佛蘭西の操業高爐數並品種別銑鋼生產高

Iron & Coal Trades Review June 3, 1932

四月末現在佛蘭西の操業高爐數は七九基で一ヶ月前より一基を増加した、四月の銑鐵生產高は四五九、〇〇〇噸（三月四七一、〇〇〇噸）を算し其の内譯次の如し

鹽基性鐵	三五四、〇〇〇
含磷鑄物銑	五八、〇〇〇
半含磷銑	六、〇〇〇
ヘマタイト鑄物銑	一一、〇〇〇
ヘマタイトフォージ及ベセマー銑	一八、〇〇〇
合金鐵及スピーゲル	一一、〇〇〇

四月の鋼生產高は四五七、〇〇〇噸（三月四六四、〇〇〇）を算し内四四四、〇〇〇噸は鋼塊、一三、〇〇〇噸は鑄物であつた、製法別に示せば次の如し

鹽基性轉爐鋼	三一、〇〇〇
酸性轉爐鋼	五、〇〇〇
平爐鋼	一一九、〇〇〇
電氣鋼	一一、〇〇〇
坩堝鋼	一、〇〇〇

本年四月中ルクセンブルクの操業高爐數並銑鋼生產高

ルクセンブルク四月末現在操業高爐數は二二基を算し前月より一基を増した、四月中の銑鐵生産高(全部鹽基性鐵)は前月の一五一、三三七噸に對し一五九、四五一噸に達した。

四月の製鋼高は一六〇、五三八噸(前月一五三、三〇九)を算し其の内譯次の如し

鹽基性ペセマー鋼 一六〇、〇七三噸
電氣鋼 四六五

本年四月中白耳義の銑鋼生産高

Iron & Coal Trades Review, June 10, 1932

四月末現在操業高爐數四〇基(前月より三基減)銑鐵生産高二四四、五五〇噸(前月二四九、一六〇)、鋼塊生産高二四八、七五〇噸(前月二四八、〇一〇)、鋼鑄物生産高四、九五〇噸(前月四、四〇〇)鋼材生産高一八九、二五〇噸(前月一七五、八〇〇)鐵製品生産高三、〇三〇噸(前月二、三三〇)を算した

一九三一年中合衆國の亞鉛生産高 (Slab zinc)

Iron & Coal Trades Review, June 1, 1932

一九三一年合衆國亞鉛還元工場に於けるスラブジンの生産高は合計三一三、六二一短屯に達した、内二九一、九九六屯は全然國內鑛石から製した優良品で二一、六二五屯は二等品であつた、尙右の内電解亞鉛は八二、二二〇屯であつた。

一九三二年五月中合衆國の銑鐵産額

六月一日現在の操業高爐數は僅に五三基で五月中に七基を吹下らした、五月の銑鐵生産高は七八三、五五四屯に減し、一八九七年以來の最低數字に達した。

一九三二年五月中ルクセンブルクの銑鋼生産額

五月末現在操業高爐數二二基五月の銑鐵生産高一六〇、二九五噸(四月一五九、四五二)、全部鹽基性鐵鑄であつた。

五月の鋼産額は一六一、四三七噸(四月一六〇、五三八)で内、一六〇、八八八噸は鹽基性轉爐鋼五四九噸は電氣鋼であつた。

一九三二年五月中獨逸の銑鋼産額

五月末現在操業高爐數四一基で(前月より一基を増す)銑鐵生産高は三八一、三八〇噸(前年五月五四、六四八)であつた、内譯次の如し

ヘマタイト銑 一七、三一七噸
鑄物銑 一九、六五六噸
鹽基性鐵 二七、二二六噸
合金鐵、スピゲル等 七一、七五九噸

五月中鋼生産高次の如し

鋼塊及鑄物合計

六二三、九四八噸

鋼塊の内

鹽基性轉爐鋼

一八四、六五七噸

酸性 "

無し

鹽基性平爐鋼

四一二、九四六 "

酸性 "

三、三九六 "

坩堝及電氣鋼

八、七六二 "

其他

一、六六二 "

其

他

三八七 "

白耳義

操業高爐數月未現在

銑鐵生産高

一月 二月 三月 四月 五月

四三基 四三基 四三基 四三基 四〇基
二四六、五七〇噸 二四四、〇六〇噸 二四九、一六〇噸 二四四、五五〇噸

白耳義とルクセンブルクの操業高爐數並に銑鐵生産高比較

ルクセンブルグ

一月 二月 三月 四月 五月

二一基 二二基 二二基 二二基 二二基
一五〇、〇〇〇噸 一五三、〇〇〇噸 一五一、三三七噸 一五九、四五一噸 一六〇、二九五噸

一九三一年中西班牙の鐵鑛石及び銑鋼生産高

Iron & Coal Trades Review, June 24, 1932

一九三一年の鐵鑛石産額は合計三、一二八、八二四噸に達した、銑鋼の生産高次の如し

銑鋼 滿庵鐵 銑鐵 滿庵鐵 銑鐵

四七五、八三三噸 六〇三、七五〇噸 九、九七二噸 三、五九三噸 一、六四八噸

製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生産高月別表

單位 吨

1

附 表		鉄 鐵	普 通 鋼			半 製 品				普 通 鋼 壓 延 鋼 材									
			鋼 塊	鑄鋼	計	販賣向 鋼 延 鋼 片	販賣向 シ ー ト	販賣向 ス ケ ル ア	計	鋼 板		棒 鋼	形 鋼	軌 條	ワイヤ ロ ッ ド	鋼 管	其 他	計	
										厚 0.7 耗 以 下	其 他								
製 鐵 所	昭和二年月平均	58,524	87,326	220	87,546	5,638	81	5,719	1,710	12,555	13,640	11,821	14,535	1,845	3,196	59,303	
	昭和三年 "	69,741	91,087	307	91,394	4,446	623	5,069	2,340	13,499	15,094	13,493	17,140	1,564	3,889	67,019	
	昭和四年 "	65,614	109,476	346	109,822	7,755	537	8,292	3,836	15,025	17,158	13,425	23,095	5,147	884	78,570	
	昭和五年 "	72,109	107,438	351	107,789	6,139	65	6,204	4,219	14,279	12,386	12,872	24,353	6,347	699	75,515	
	昭和六年 "	53,378	77,350	371	77,721	4,479	7,218	970	12,667	5,406	10,164	7,936	10,576	8,878	7,970	679	51,609	
	昭和七年 1月	54,332	67,791	292	68,083	3,323	6,517	1,611	11,451	4,815	8,286	6,984	17,771	8,088	8,532	264	54,740	
	2月	53,032	89,993	442	90,435	5,190	10,203	2,013	17,406	5,581	8,323	6,230	16,311	16,721	9,436	(短尺除鋼)	257	62,859	
	3月	65,151	102,601	313	102,914	6,113	11,708	2,642	20,463	6,178	10,202	6,290	13,380	20,189	10,807	150	67,196	
	4月	66,475	101,807	274	102,081	6,754	15,992	673	23,419	5,618	8,634	8,242	14,440	16,574	8,217	243	62,781	
	5月	67,429	115,793	497	116,290	5,525	13,625	961	20,111	6,217	11,108	12,348	7,860	23,675	10,059	566	330	72,163	
	6月	65,504	100,316	423	100,739	6,103	15,222	933	22,258	5,565	12,222	12,102	10,078	19,125	7,265	453	280	67,090	
	7月	58,750	102,039	308	102,347	5,628	7,441	832	13,901	4,754	9,895	8,158	9,480	21,467	6,544	750	370	61,418	
	8月																		
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			
計																			
民 間 製 鐵 所	昭和二年月平均	15,162	46,433	2,191	48,624	28	255	283	5,446	8,994	23,965	5,505	345	450	4,193	1,832	50,730	
	昭和三年 "	19,998	60,365	3,829	64,194	15	15	6,435	12,913	30,493	7,865	341	568	5,626	1,835	66,076	
	昭和四年 "	23,201	76,934	3,779	80,731	54	54	12,270	14,913	34,341	8,226	132	502	6,544	1,455	78,383	
	昭和五年 "	23,955	75,126	2,746	77,872	60	630	690	14,424	13,191	24,302	7,789	261	3,773	7,288	1,331	72,362	
	昭和六年 "	23,093	75,391	2,232	77,623	80	119	199	16,543	12,548	25,875	5,821	198	6,743	5,307	1,196	74,231	
	昭和七年 1月	22,662	72,496	2,026	74,522	15,929	11,730	31,546	5,777	6,367	6,336	1,125	78,810	
	2月	23,018	93,274	2,966	96,240	20,158	16,520	36,330	7,315	8,621	7,457	774	97,375	
	3月	22,765	92,532	2,953	95,485	21,503	12,775	34,881	7,166	9,472	8,689	1,437	95,923	
	4月	21,570	93,546	2,931	96,477	14	14	22,410	14,207	34,113	6,410	7,635	8,411	2,413	95,599	
	5月	23,065	93,902	3,113	97,015	24	24	21,199	15,514	32,442	9,373	8,846	8,845	2,120	98,339	
	6月	23,302	89,528	2,879	92,407	193	193	19,915	13,725	29,853	8,715	8,190	8,240	1,836	90,474	
	7月																		
	8月																		
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			
計																			

備 考 本表中には満鮮を含まず 製鐵所に於て借入作業中の東洋製鐵會社並九州製鋼會社の生産高は製鐵所に含む
 鮮滿の6月迄の合計鉄鐵生産額 270,132 吨

局調に依る

年次	獨逸		白耳義		瑞 典	チエツコス ロバークヤ		合 計			
	鉄	鋼	鉄	鋼		鉄	鋼	鉄	鋼		
1913年月平均	(a) 910	994	207	206	3	61	62	6,280	5,976
1920 "	532	650	93	104	9	39	42	(e) 61	81	5,050	5,703
1921 "	655	772	73	64	9	26	20	48	76	3,009	3,521
1922 "	766	943	134	130	9	22	29	28	60	4,488	5,528
1923 "	412	525	179	191	8	24	26	68	98	5,595	6,323
1924 "	653	820	237	240	2	43	46	82	113	5,457	6,634
1925 "	841	1,016	212	212	1	36	43	97	123	6,195	7,308
1926 "	803	1,028	281	278	5	39	44	91	112	6,308	7,336
1927 "	1,091	1,359	309	307	8	35	44	105	141	6,905	8,190
1928 "	984	1,205	321	325	3	33	51	131	164	7,062	8,845
1929 "	1,117	1,354	337	342	4	41	60	139	179	7,892	9,663
1930 "	808	962	283	282	1	38	52	120	153	6,397	7,601
1931 "	505	691	269	260	3	32	46	97	127	4,412	5,493
1932年 1月	358	400	247	242	1	23	37	51	61	3,430	4,229
2月	330	448	244	247	5	24	44	47	63	3,276	4,390
3月	314	435	249	250	3	29	56	43	59	3,290	4,310
4月	336	521	245	254	4	21	48	43	53	3,223	4,222
5月	381	624	1	21	49	33	55	3,425	4,404

備 考 1. 1913年の獨、佛
 2. (a).....ルクセン
 (d).....1921年
 (g).....1930年
 3. 鉄は鉄鐵、鋼は鋼

年次	獨逸	白耳義	瑞 典	チエツコス ロバークヤ	合 計
1913	910	994	207	206	6,280
1920	532	650	93	104	5,050
1921	655	772	73	64	3,009
1922	766	943	134	130	4,488
1923	412	525	179	191	5,595
1924	653	820	237	240	5,457
1925	841	1,016	212	212	6,195
1926	803	1,028	281	278	6,308
1927	1,091	1,359	309	307	6,905
1928	984	1,205	321	325	7,062
1929	1,117	1,354	337	342	7,892
1930	808	962	283	282	6,397
1931	505	691	269	260	4,412
1932年 1月	358	400	247	242	3,430
2月	330	448	244	247	3,276
3月	314	435	249	250	3,290
4月	336	521	245	254	3,223
5月	381	624	3,425

各國鉄鋼月別生産統計

(單位千吨)

國際聯盟刊行 "Monthly Bulletin of Statistics" に依る 但し日本の分は鑛山局調に依る

年次	獨逸		白耳義		加奈陀		西班牙		合衆國		佛蘭西		伊太利		日本		ルクセンブルク		波蘭		英國		露西亞		ザール		瑞典		チエツコスロバキヤ		合計	
	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼	鉄	鋼		
1913年月平均	910	994	207	206	85	88	37	32	2,592	2,564	756	581	37	78	(b) 20	(f) 21	212	98	(e) 869	649	380	430	114	173	61	62	6,280	5,976
1920 "	532	650	93	104	82	93	21	13	3,069	3,461	279	226	7	64	61	70	58	49	(d) 4	6	680	768	10	14	54	59	39	42	(e) 61	81	5,050	5,703
1921 "	655	772	73	64	50	57	29	31	1,389	1,628	287	258	5	59	55	74	81	64	5	10	221	314	10	15	75	79	26	20	48	76	3,009	3,521
1922 "	766	943	134	130	32	41	17	19	2,271	2,927	440	378	13	87	58	76	140	117	40	84	415	498	16	30	96	109	22	29	28	60	4,488	5,528
1923 "	412	525	179	191	74	75	33	40	3,363	3,682	456	442	20	102	67	80	117	100	43	95	630	718	32	61	77	88	24	26	68	98	5,595	6,323
1924 "	653	820	237	240	50	56	41	45	2,614	3,117	641	556	25	122	69	92	180	157	28	57	619	696	63	95	112	122	43	46	82	113	5,457	6,634
1925 "	841	1,016	212	212	48	64	44	53	3,058	3,737	709	622	40	158	78	108	197	174	26	65	530	625	128	177	121	131	36	43	97	123	6,195	7,308
1926 "	803	1,028	281	278	64	66	41	51	3,277	3,794	786	718	43	157	95	125	213	187	27	66	208	305	204	260	135	145	39	44	91	112	6,308	7,336
1927 "	1,091	1,359	309	307	60	77	49	56	3,036	5,675	775	696	41	143	107	140	228	206	52	104	617	770	252	310	148	158	35	44	105	141	6,905	8,190
1928 "	984	1,205	321	325	88	105	46	65	3,167	4,222	832	792	42	175	128	159	231	214	57	119	560	722	281	357	161	173	33	51	131	164	7,062	8,845
1929 "	1,117	1,354	337	342	91	117	58	77	3,580	4,599	864	808	56	188	130	191	242	225	59	115	643	816	360	409	175	184	41	60	139	179	7,892	9,663
1930 "	808	962	283	282	63	86	50	72	2,659	3,326	842	784	45	148	141	191	206	189	40	103	525	618	418	474	159	161	38	52	120	153	6,397	7,601
1931 "	505	691	269	260	36	57	40	48	1,547	2,108	685	651	42	121	117	153	171	170	29	86	318	438	398	409	126	128	32	46	97	127	4,412	5,493
1932年 1月	358	400	247	242	10	25	20	35	988	(g) 1,485	490	469	40	94	120	140	150	146	12	30	335	437	494	516	112	111	23	37	51	61	3,430	4,228
2月	330	448	244	247	11	29	19	41	980	1,488	458	463	37	99	118	183	150	156	9	35	329	488	423	460	116	125	24	44	47	63	3,276	4,360
3月	314	435	249	250	18	44	29	43	983	1,433	471	464	39	113	134	195	151	153	13	39	341	470	482	492	109	118	29	56	43	59	3,290	4,310
4月	336	521	245	254	17	37	866	1,260	460	457	43	108	134	195	159	161	11	38	322	440	516	492	112	124	21	48	43	53	3,223	4,222
5月	381	624	14	30	796	1,125	459	445	39	115	135	210	160	161	320	424	554	498	125	134	21	49	33	55	3,425	4,404

- 備考
- 1913年の獨、佛の生産高は現在領域の分にして鉄には鐵合金を含む
 - (a).....ルクセンブルクを除く。1922年以降波蘭領上部シレジアを除く
(d).....1921年は波蘭領上部シレジアを除く
(g).....1930年に於て總産額の94.51パーセントを産したる諸製鋼所の分
 - 鉄は鉄鐵、鋼は鋼塊及鑄物
- (b).....日本の鉄鐵は朝鮮、滿洲を含む
(e).....鐵合金を含む (f).....鑄物を除く
(h).....概算

Table on the right page, partially visible and mostly illegible due to image quality and orientation. It appears to be a continuation of the statistical data or a related table.

昭和七年八月二十五日印刷
昭和七年九月一日發行

製
鐵
所

印刷所 製鐵所總務部文書課活版場

